

市内遺跡調査概報 27

— 平成 28 年度 瑞龍寺遺跡の発掘調査報告他 —

2018 年 3 月

高岡市教育委員会

市内遺跡調査概報 27

— 平成 28 年度 瑞龍寺遺跡の発掘調査報告他 —

2018 年 3 月

高岡市教育委員会

序

高岡市域においては、現在341箇所もの遺跡が周知されています。これら多くの遺跡で醸成された文化は、先祖から代々受け継がれ、現在の高岡市の風土や郷土文化をかたちづくっております。本市としましては、これら貴重な文化財を今後も保護して参る所存であります。

このたび報告いたしますのは、個人住宅等の建設に伴い平成28年度に実施した試掘調査23遺跡40地区の概要です。

平成28年度に本発掘調査を実施した瑞龍寺遺跡の調査報告では、近世の瓦や陶磁器が出土しており、瑞龍寺遺跡の周辺の様相についてわかる貴重な資料となります。試掘調査では、出来田南遺跡にて古代の掘立柱建物を確認しており、中曾根遺跡では、弥生時代から中世にいたる遺構や遺物を検出するなど、貴重な資料を得ることができました。

本書が郷土における歴史探求や学術研究に活用していただければ幸いです。

末尾になりましたが、今回の発掘調査の実施にあたり、ご協力いただきました関係各位、地元の皆様に、厚くお礼申し上げます。

平成30年3月

高岡市教育委員会
教育長 米谷 和也

例　　言

1. 本書は、富山県高岡市において高岡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。
2. 当調査は、個人住宅の建設等の開発行為に伴い実施したものである。
3. 現地調査は平成28年度に国庫補助金の交付を受けて実施し、これにかかる報告書作成は平成29年度国庫補助金の交付を受け、高岡市教育委員会が実施した。
4. 本書で報告する遺跡ならびに調査地区は23遺跡40箇所である。
5. 調査形態は、本発掘調査と試掘調査である。
6. 調査関係者は以下のとおりである。

課　　長	杉 森　芳 昭	(28年度～)
主　　幹	宇 波　育 代	(28年度～)
主　　任	田 上　和 彦	(29年度～)
	杉 山　大 晋	(29年度～)
非常勤職員	上 板　哲 也	
	盛 田　拳 生	(28年度～)

7. 屋外調査は28年度に田上・杉山・盛田が担当し、報告書の編集は整理員の協力を得て、杉山・田上・盛田が担当した。
8. 発掘調査及び遺物整理の従事者は次の通りである。（五十音順）
【現地調査】
石田敏行　小板達朗　高嶋輝雄　畠山行男　馬道弘一
【報告書編集作業】
松田なぎさ　宮野美重子　山口淳子
9. 発掘調査にかかる遺物等の資料は、すべて高岡市教育委員会が一括保管している。
10. 現地調査や報告書の作成等は、以下の各氏・機関から指導・協力を得た。（五十音順 敬称略）
西井龍儀

凡　　例

1. 本書に掲載した遺構図の方位は座標北であり、水平基準は海拔高である。
2. 本書においては、各遺構に対し、次のような記号を付してその種別を表した。
S A : 横址　S B : 掘立柱建物　S D : 構造遺構　S E : 井戸址　S K : 土坑
S X : 四地及び性格不明遺構
3. 本書においては、遺物実測図の縮尺のうち、特に記載のないものは土器・陶磁器類は1／3、で統一した。その他は遺物番号などに記載している。

目 次

序
例 言
凡 例
目 次

第1章 遺跡の位置と歴史的環境	1
第2章 瑞龍寺遺跡（早借地区）発掘調査報告	4
第3章 試掘調査	11

- | | |
|---------------------------------|----------------------------|
| 1. 出来田南遺跡（大和情報サービス地区） | 21. 下老子笹川遺跡（本領建設工業地区） |
| 2. 下北島住吉遺跡（高木地区） | 22. 井口本江遺跡（ア・ライズ地区） |
| 3. 蓮花寺遺跡（トラストホーム地区） | 23. 出来田南遺跡（ア・ライズ地区） |
| 4. 越中国府関連遺跡（金森地区） | 24. 瑞穂町遺跡（出木野屋地区） |
| 5. 赤祖父羽佐間遺跡
(カネコ・コーポレーション地区) | 25. 中曾根西遺跡（山森運輸地区） |
| 6. 下老子笹川遺跡（永原地区） | 26. 上北島遺跡（石浦地区） |
| 7. 前田墓所遺跡
(三協フロンティア地区・井上地区) | 27. 西佐野千代遺跡（黒越地区） |
| 8. 出来田南遺跡（桜野地区） | 28. 下老子笹川遺跡（永原2地区） |
| 9. 中曾根北遺跡（石敬商事地区） | 29. 中曾根遺跡（県道能町姫野線及び圃場整備地区） |
| 10. 越中国府関連遺跡（田口地区） | 30. 江尻A遺跡（二塚地区） |
| 11. 守護町遺跡（古川地区） | 31. 井口本江遺跡（市道18号地区） |
| 12. 积迦堂古墳群（日本海鉄業地区） | 32. 井口本江遺跡（船井地区） |
| 13. 前田墓所遺跡（西森地区） | 33. 上二上遺跡（中山地区） |
| 14. 中木津遺跡（上野地区・澤井地区） | 34. 越中国府関連遺跡（田中地区） |
| 15. 今市遺跡（柴地区） | 35. 上北島遺跡（福島地区） |
| 16. 下佐野遺跡（消防分団地区） | 36. 中曾根館遺跡（圃場整備地区） |
| 17. 下北島住吉遺跡（IDOM地区） | 37. 越中国府関連遺跡（山田地区） |
| 18. 赤祖父羽佐間遺跡（リヴウェル地区） | |
| 19. 東木津遺跡（酢谷不動産地区） | |
| 20. 出来田南遺跡（上田地区） | |

挿図目次

- 第1図 調査位置図
第2図 瑞龍寺遺跡（早借地区）調査位置図
第3図 瑞龍寺遺跡と周辺の遺跡（1/2万5千）
第4図 瑞龍寺遺跡（早借地区）平面図
第5図 瑞龍寺遺跡（早借地区）遺物実測図（1）
第6図 瑞龍寺遺跡（早借地区）遺物実測図（2）
第7図 出来田南遺跡（大和情報サービス地区）調査区位置図
第8図 出来田南遺跡（大和情報サービス地区）トレンチ配置図
第9図 出来田南遺跡（大和情報サービス地区）遺物実測図
第10図 下北島住吉遺跡（高木地区）調査区位置図
第11図 蓬花寺遺跡（トラストホーム地区）調査区位置図
第12図 越中国府閔連遺跡（金森地区）調査区位置図
第13図 赤祖父羽佐間遺跡（カネコ・コーポレーション地区）調査区位置図
第14図 下老子笠川遺跡（永原地区）調査区位置図
第15図 前田墓所遺跡（三協フロンティア地区・井上地区）調査区位置図
第16図 出来田南遺跡（桜野地区）調査区位置図
第17図 出来田南遺跡（桜野地区）遺物実測図
第18図 出来田南遺跡（桜野地区）トレンチ配置図
第19図 中曾根北遺跡（石敬商事地区）調査区位置図
第20図 越中国府閔連遺跡（田口地区）調査区位置図
第21図 守護町遺跡（古川地区）調査区位置図
第22図 釧路堂古墳群（日本海鉱業地区）調査区位置図
第23図 前田墓所遺跡（西森地区）調査区位置図
第24図 中木津遺跡（上野地区・澤井地区）調査区位置図
第25図 今市遺跡（柴地区）調査区位置図
第26図 下佐野遺跡（消防分団地区）調査区位置図
第27図 下北島住吉遺跡（IDOM地区）調査区位置図
第28図 赤祖父羽佐間遺跡（リヴェル地区）調査区位置図
第29図 赤祖父羽佐間遺跡（リヴェル地区）遺物実測図
第30図 東木津遺跡（酢谷不動産地区）調査区位置図
第31図 出来田南遺跡（上田地区）調査区位置図
第32図 出来田南遺跡（上田地区）遺物実測図
第33図 下老子笠川遺跡（本領建設工業地区）調査区位置図
第34図 井口本江遺跡（ア・ライズ地区）調査区位置図
第35図 井口本江遺跡（ア・ライズ地区）遺物実測図
第36図 出来田南遺跡（ア・ライズ地区）調査区位置図
第37図 瑞穂町遺跡（出木野屋地区）調査区位置図

- 第38図 中曾根西遺跡（山森運輸地区）調査区位置図
- 第39図 上北島遺跡（石浦地区）調査区位置図
- 第40図 西佐野千代遺跡（黒越地区）調査区位置図
- 第41図 下老子笠川遺跡（永原2地区）調査区位置図
- 第42図 中曾根遺跡（県道能町姫野線及び圃場整備地区）調査区位置図
- 第43図 中曾根遺跡（県道能町姫野線及び圃場整備地区）遺物実測図
- 第44図 江尻A遺跡（二塚地区）調査区位置図
- 第45図 井口本江遺跡（市道18号地区）調査区位置図
- 第46図 井口本江遺跡（船井地区）調査区位置図
- 第47図 上二上遺跡（中山地区）調査区位置図
- 第48図 越中国府閔連遺跡（田中地区）調査区位置図
- 第49図 上北島遺跡（福島地区）調査区位置図
- 第50図 中曾根館遺跡（圃場整備地区）調査区位置図
- 第51図 越中国府閔連遺跡（山田地区）調査区位置図

図版目次

図版01 遺構写真 瑞龍寺遺跡（早借地区）	1. 第1地区全景（東） 2. 第2地区全景（東）
図版02 遺構写真 出来田南遺跡（大和情報サービス地区）	1. 第1トレンチ全景（東）
下北島住吉遺跡（高木地区）	2. 第1トレンチ全景（南）
越中国府閔連遺跡（金森地区）	3. 第1トレンチ全景（西）
図版03 遺構写真 赤祖父羽佐間遺跡（カネコ・コーポレーション地区）	1. 第1トレンチ全景（北）
下老子笠川遺跡（永原地区）	2. 第2トレンチ全景（南）
前田墓所遺跡（三協フロンティア地区）	3. 第1トレンチ全景（東）
図版04 遺構写真 前田墓所遺跡（井上地区）	1. 第1トレンチ全景（西）
出来田南遺跡（桜野地区）	2. 第1トレンチ全景（西）
中曾根北遺跡（石敬商事地区）	3. 第1トレンチ全景（西）
図版05 遺構写真 越中国府閔連遺跡（田口地区）	1. 第2トレンチ全景（南）
守護町遺跡（古川地区）	2. 第1トレンチ全景（東）
积迦堂古墳群（日本海鉄業地区）	3. 第1・2トレンチ全景（東）
図版06 遺構写真 前田墓所遺跡（西森地区）	1. 第2トレンチ全景（西）
中木津遺跡（上野地区）	2. 第1トレンチ全景（南）
中木津遺跡（澤井地区）	3. 第1トレンチ全景（東）

- 図版07 遺構写真 今市遺跡（柴地区） 1. 第2トレンチ全景
下佐野遺跡（消防分団地区） 2. 第1トレンチ全景
下北島住吉遺跡（IDOM地区） 3. 第1トレンチ全景
- 図版08 遺構写真 赤祖父羽佐間遺跡（リヴウェル地区） 1. 第2トレンチ全景
東木津遺跡（酢谷不動産地区） 2. 第3トレンチ全景
出来田南遺跡（上田地区） 3. 第3トレンチ全景
- 図版09 遺物写真 下老子笹川遺跡（本領建設工業地区） 1. 第1トレンチ全景
井口本江遺跡（ア・ライズ地区） 2. 第1トレンチ全景
出来田南遺跡（ア・ライズ地区） 3. 第1トレンチ全景
- 図版10 遺構写真 瑞穂町遺跡（出木野屋地区） 1. 第1トレンチ全景
中曾根西遺跡（山森運輸地区） 2. 第3トレンチ全景
上北島遺跡（石浦地区） 3. 第1トレンチ全景
- 図版11 遺構写真 西佐野千代遺跡（黒越地区） 1. 第1トレンチ全景
下老子笹川遺跡（永原2地区） 2. 第1トレンチ全景
中曾根遺跡（圃場整備地区） 3. 第2トレンチ全景
- 図版12 遺構写真 中曾根遺跡（県道能町姫野線及び圃場整備地区） 1. 第5トレンチ全景
江尻A遺跡（二塚地区） 2. 第1トレンチ全景
井口本江遺跡（市道18号地区） 3. 第1トレンチ全景
- 図版13 遺構写真 井口本江遺跡（船井地区） 1. 第1トレンチ全景
上二上遺跡（中山地区） 2. 第1トレンチ全景
越中国府関連遺跡（田中地区） 3. 第1トレンチ全景
- 図版14 遺構写真 上二上遺跡（福島地区） 1. 第1トレンチ全景
中曾根館遺跡（圃場整備地区） 2. 第2トレンチ全景
越中国府関連遺跡（山田地区） 3. 第2トレンチ全景

第1章 遺跡の位置と歴史的環境

高岡市は富山県の西部に位置し、県内第2位の人口を擁する。市域は東西約24.5km、南北約19.2kmに及び、その面積は富山県域の約5%にあたる209.38km²を呈する。

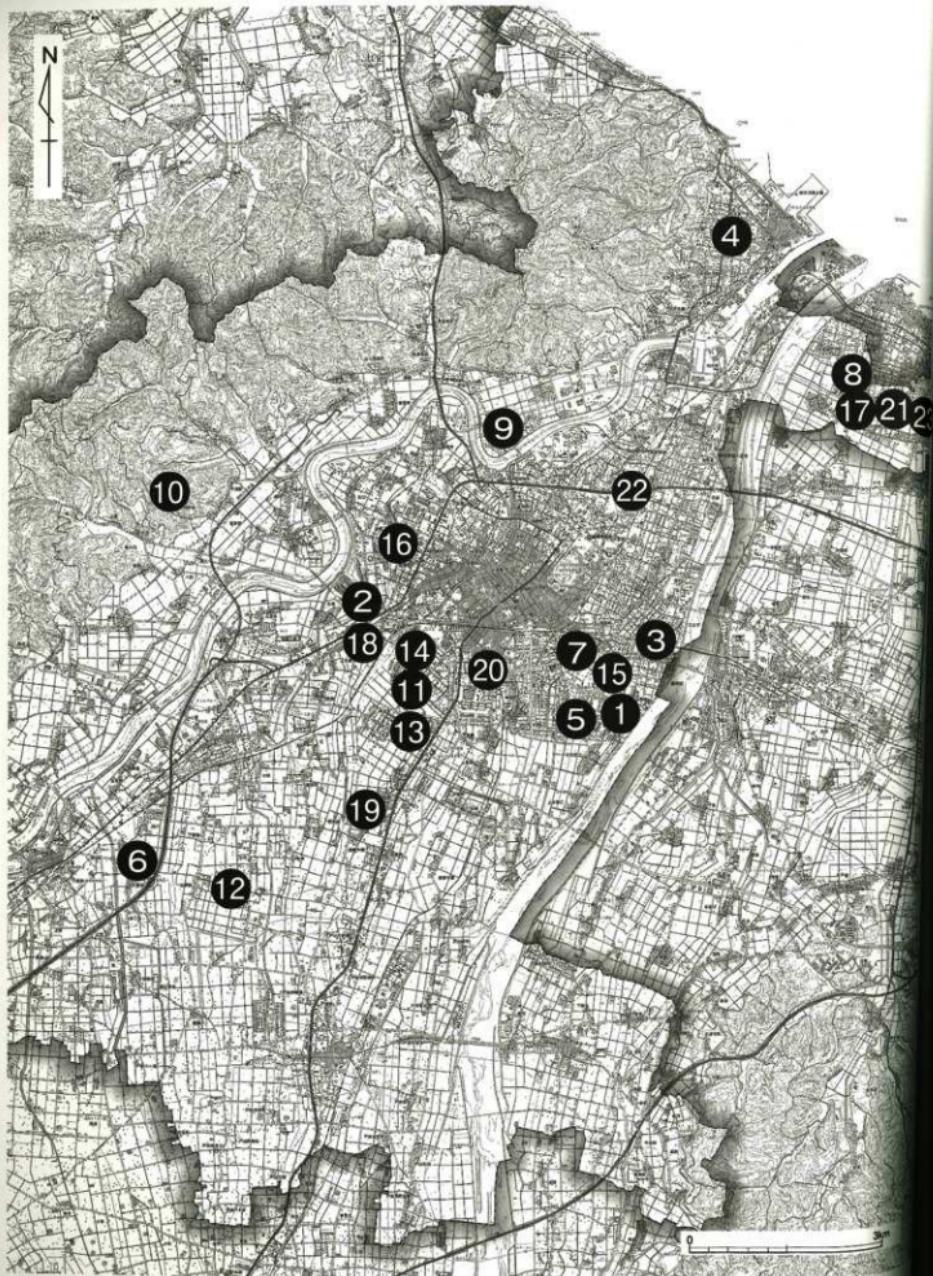
地形的には山間部のほか、丘陵部や平野部から成り、北部では日本海の富山湾に面する。平野部は北陸有数の穀倉地帯を形成し、古くから舟運や海運の発達を促す地勢を有した地域といえる。

市内には庄川と小矢部川が所在する。高岡の平野部はこの2河川による複合的な扇状地で形成されているが、小矢部川左岸では西山丘陵とよばれる標高300mに満たない丘陵がつらなり、能登半島の宝達山を主峰とする山間部に繋がっている。

現在、高岡市では341もの遺跡が周知されており、その分布状況は、山間部のほか丘陵部や平野部に大別できる。山間部では旧石器時代の遺跡が点在し、縄文時代の遺跡も谷あいの平坦地などで確認されている。丘陵部には古墳群や中世城館などが密集する。また、中保B遺跡や中世の木舟城の城下町遺跡である石名田木舟遺跡など、県内の考古学研究史を語るうえでも欠かすことのできない遺跡が集中している。

瑞龍寺遺跡では、多くの遺構を検出するとともに、近世・近代の瓦や陶器類の遺物が出土した。加えて、出来田南遺跡では、掘立柱建物をはじめとする古代の集落跡を検出し、それに伴う古代の土器類も出土している。また、中曾根遺跡では、溝や土坑、ピットなどの多くの遺構を検出し、弥生時代から近世までの遺物が多数出土した。

- ① 出来田南遺跡（大和情報サービス地区、桜野地区、上田地区、ア・ライズ地区）
- ② 下北島住吉遺跡（高木地区、IDOM地区）
- ③ 蓮花寺遺跡（トラストホーム地区）
- ④ 越中国府関連遺跡（金森地区、田口地区、田中地区、山田地区）
- ⑤ 赤祖父羽佐間遺跡（カネコ・コーポレーション地区、リブウェル地区）
- ⑥ 下老子笹川遺跡（永原地区、本領建設工業地区、永原2地区）
- ⑦ 前田墓所遺跡（三協フロンティア地区、井上地区、西森地区）
- ⑧ 中曾根北遺跡（石敬商事地区）
- ⑨ 守護町遺跡（古川地区）
- ⑩ 積迦堂古墳群（日本海鉱業地区）
- ⑪ 中木津遺跡（上野地区、澤井地区）
- ⑫ 今市遺跡（柴地区）
- ⑬ 下佐野遺跡（消防分団地区）
- ⑭ 東木津遺跡（酢谷不動産地区）
- ⑮ 井口本江遺跡（ア・ライズ地区、市道18号線地区、船井地区）
- ⑯ 瑞穂町遺跡（出木野屋地区）
- ⑰ 中曾根西遺跡（山森運輸地区）
- ⑱ 上北島遺跡（石浦地区、福島地区）
- ⑲ 西佐野千代遺跡（黒越地区）
- ⑳ 瑞龍寺遺跡（早借地区）
- ㉑ 中曾根遺跡（圃場整備地区）
- ㉒ 江尻A遺跡（二塚地区）
- ㉓ 中曾根館遺跡（圃場整備地区）



第1図 調査位置図

試掘調査

第1表 平成28年度の遺跡調査一覧

No	遺跡名	読み方	所在地	時代	種別	現状
1	出来田南遺跡	できでんみなみいせき	出来田	奈良～平安	集落	水田・宅地
2	下北島住吉遺跡	しもきたじますみよしふいせき	北島	編文～古墳	散布地	畠・宅地
3	蓮花寺遺跡	れんげじふいせき	蓮花寺	平安～中世	散布地	水田
4	越中国附閑遺跡	えっちゅうけつくぶかんねんいせき	伏木	古代・中世	官衙	宅地
5	赤祖父羽佐間遺跡	あかそふはざまいいせき	赤祖父	古墳～中世	集落	宅地
6	下老子篠川遺跡	しもおじさんがわいせき	福岡町下老子	編文晚期～近世	集落	水田
7	前田萬所遺跡	まえだばしょいせき	駅前	近世	古墓	史跡
8	中曾根北遺跡	なかがねきたいせき	中曾根	弥生～中世	散布地	水田
9	守護町遺跡	しゆごまちいせき	守護町	奈良～中世	散布地	宅地
10	祝應堂古墳群	しやくぎょうどうこふんぐん	月ノ谷谷	古墳	古墳	山林
11	中木津遺跡	なかきづいせき	木津	奈良～近世	散布地	水田
12	今市遺跡	いまいちいせき	今市	弥生～近世	散布地	水田
13	下生野遺跡	しもさのいせき	佐野	弥生～中世	散布地	水田・宅地
14	東木津遺跡	ひがしきづいせき	佐野	弥生～近世	集落・官衙	水田・宅地
15	井口本江遺跡	いぐちほんごういせき	出来田	奈良～平安	集落	水田・宅地
16	瑞穂町遺跡	みずほちょういせき	瑞穂町	弥生～古墳	散布地	宅地
17	中曾根西遺跡	なかがねそねにしひいせき	中曾根	弥生～中世	集落	水田
18	上北島遺跡	かみきたじふいせき	上北島	平安～中世	散布地	水田
19	西佐野千代遺跡	にしきのせんぢまいいせき	和田	弥生～平安	散布地	水田・宅地
20	瑞龍寺遺跡	ずいりゅうじふいせき	上開町	近世	寺院	境内地
21	中曾根遺跡	なかがねいせき	中曾根	弥生～中世	散布地	水田
22	江原八ヶ遺跡	えりはらやがいせき	江原	古代～中世	散布地	宅地

第2章 瑞龍寺遺跡（早借地区）発掘調査報告

第1節 遺跡概観

第1項 瑞龍寺遺跡の位置

瑞龍寺遺跡は、あいの風とやま鉄道高岡駅の南西750mに位置し、旧瑞龍寺（伽藍瑞龍）の境内にあたる東西365m×南北330mが遺跡範囲である。当遺跡の中央西寄りをJR城端線が南北方向に走る。遺跡の西方では千保川が、遺跡の東方では庄川がそれぞれ北流している。現在の庄川本流は、寛文10年（1670）から正徳4年（1714）にかけて加賀藩による河川改修によって固定され、それまでは千保川筋が庄川本流であった。

当遺跡は高岡台地の南西端に位置する。高岡台地は標高約15mを測り南西～北東方向に延びる。当地には後期旧石器時代の古定塚遺跡、縄文時代の中川遺跡・小竹藪遺跡・大手口遺跡があり、中川遺跡・小竹藪遺跡からは古墳時代前期の土器も出土している。慶長14年（1609）に加賀前田家2代当主前田利長が隠居城としてこの高岡台地上に高岡城を築造し、現在の高岡市街地の基礎を造った。

高岡城の南西側に位置するのが瑞龍寺であり、慶長19年（1614）に利長が逝去した後は菩提寺となった。元和元年（1615）の一国一城の令により高岡城は廃城となるも、高岡城下は商工業の町として残された。正保2年（1645）からは利長の菩提寺の大改造も行われ、現在の瑞龍寺に直接繋がる伽藍と寺地が整備された。瑞龍寺の東北東約1kmには利長の壮大な廟所（前田墓所遺跡）が営まれ、これらを結ぶ参道・八丁道（八丁道遺跡）も設置された。



第2図 瑞龍寺遺跡（早借地区）調査区位置図

第2項 瑞龍寺遺跡の変遷

瑞龍寺遺跡は「伽藍瑞龍」の想定される境内地、すなわち外堀ラインをもって遺跡範囲として設定したものである。これは瑞龍寺に直接かかわる遺跡としたものではあるが、その後調査の進展により、これ以前の遺構も検出されている。当遺跡は、文献史料・石造物・絵図、そして考古資料から以下のように時期区分できる。

I期：瑞龍寺以前、古代～中世である。古代については、土器類の細片が出土しているのみで、遺構は確認していない。中世については溝を検出しており、珠洲等の遺物も出土している。当地は高岡台地の末端であり、周囲と比べて微高地である。寺院建立以前に一般の集落跡の所在地としても立地可能な所である。当期は細分して、I-1期=古代とI-2期=中世としたい。

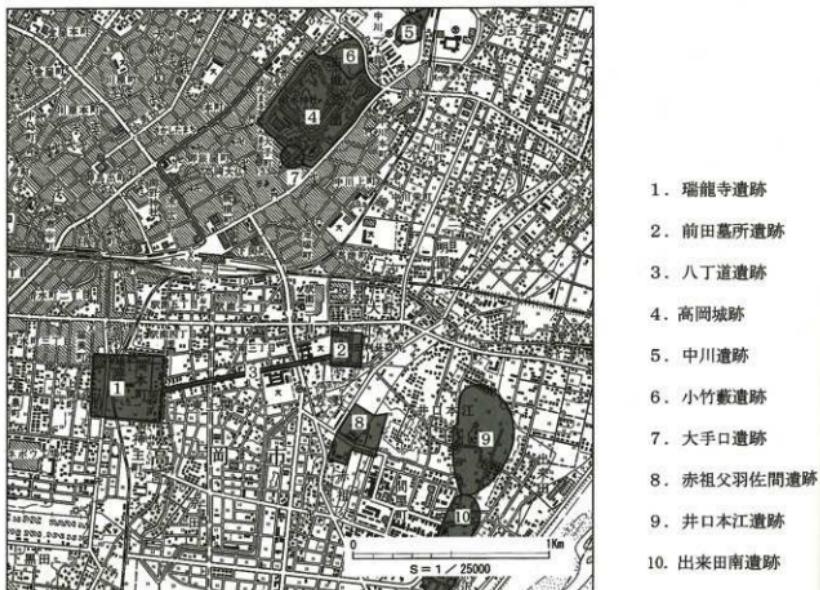
II期：瑞龍寺草創期、伽藍瑞龍以前の法円寺ないし瑞龍院の時代である。江戸時代初期である。

III期：伽藍瑞龍期、広大な寺地と壮大な伽藍が整備・建設され維持された段階。江戸時代前期・1645年以降から明治維新頃までである。延享3年（1746）に浴室より出火し、山門・七間淨頭・禪堂・及び伽藍東側の回廊が焼失した。この火災を境に2区分し、III-1期=延享3年以前、III-2期延享3年以後とする。

IV期：近代瑞龍寺期、加賀藩から援助が途絶えた瑞龍寺境内縮小期である。明治維新以後現在までである。明治42年（1909）は東宮（後の大正天皇）の北陸巡行を契機に前田墓所や八丁道が復元整備されることになった年である。近代瑞龍寺期はこの明治末頃を境に区分され、さらに戦後を一つの段階とする。すなわちIV-1期=明治維新～明治末、IV-2期=大正初め～昭和戦前、IV-3期=昭和戦後～現代と3区分が可能である。

第2節 調査に至る経緯と経過

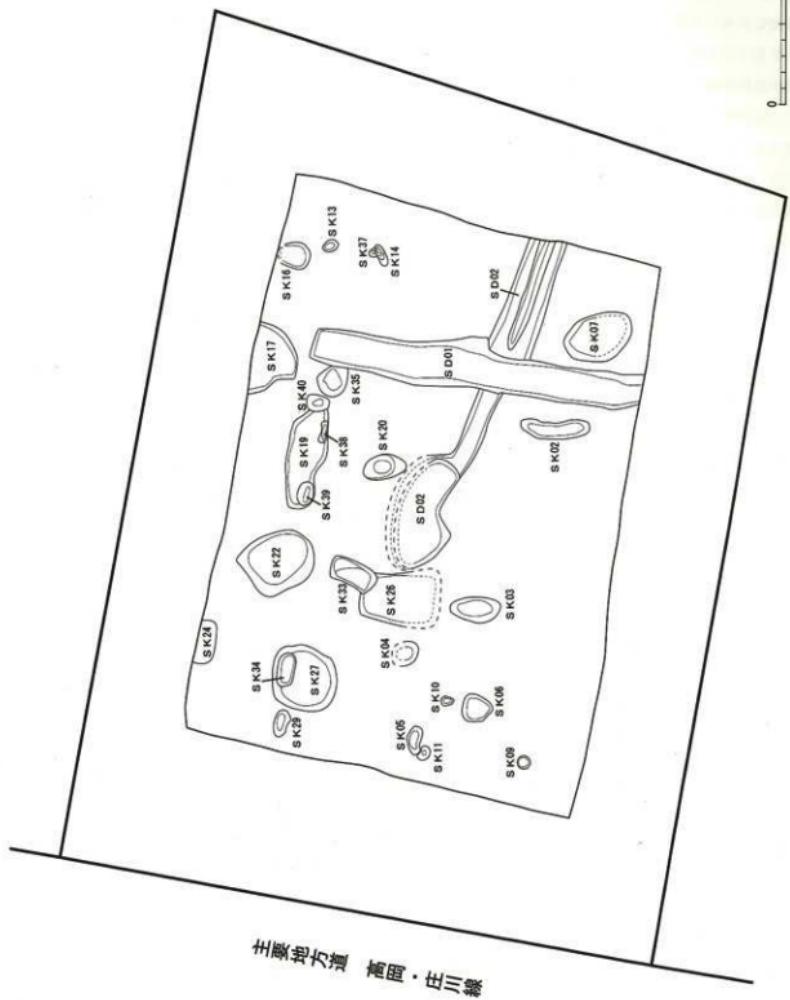
本地点は、平成23年度の試掘調査において、近世瓦を伴う形状不明の大型遺構が検出されていた。その後、平成28年度に住宅の建設設計画の相談があり、協議をした結果、住宅の基礎等により地下遺構が破壊されることになった。そのため、開発行為が及ぶ範囲について、事業者及び土地所有者の協力を得て、本発掘調査により記録保存することになった。



第3図 瑞龍寺遺跡と周辺の遺跡

N

0 5m
S = 1/150



第4図 瑞龍寺遺跡（早借地区）平面図

第3節 調査の概要

第1項 基本層序

本調査区の基本層序は、地山をふくめ計3層に分層できる。第Ⅰ層は表土、第Ⅱ層は遺物包含層、第Ⅲ層は地山及び遺物包含層である。第Ⅰ層は褐色粘質土で、厚さ約15~20cmである。現代の畑耕作土と考えられる。第Ⅱ層は暗褐色粘質土などで、厚さ30~50cmである。黄褐色粘質土や黒褐色粘質土などの薄い層も含まれる。第Ⅱ層の出土遺物は中世珠洲焼（壺）、近世瓦（丸瓦・平瓦・軒丸瓦など）、近世土師器（皿・灯明皿）、近世肥前陶磁器（染付など）、近世青磁（壺）などが検出された。遺物の時期から、近代～近世にかけての遺物包含層と考えられる。第Ⅲ層は黄褐色砂質土及び黄褐色粘土質土で、標高約9.4m~9.6mで検出された。

第2項 検出遺構

検出遺構は、溝2条（S D01・02）、土坑27基（S K02~07、09~11、13・14・16・17・19・20・22・24・26・27・29・33~35・37~40）である。

第3項 出土遺物

出土遺物は、中世珠洲焼（壺）、近世瓦（丸瓦、平瓦、軒丸瓦等）、近世土師器（皿、灯明皿）、近世肥前陶磁器（椀、鉢等）、近世青磁（壺）他である。出土した遺物の量はコンテナ26箱を数える。出土遺物の時期は近世・近代が中心であり、主に瓦と近世陶磁器が多く出土した。

第4節 遺構

第1項 溝（S D）

S D01は調査区東側で検出された南北軸の瓦溜りで、S D02を切る。長軸約10.1m以上、短軸約0.9~1.6m、深さ約15cmを測る。調査区北側から南端まで走っており、そのまま調査区外へ延びると考えられる。出土遺物は、近世瓦（21・22・23）と近世陶磁器である。遺構の性格としては、近世の瓦溜りと考えられる。

S D02は調査区中央～東側で検出された東西軸の溝で、S D01に切られる。長軸約11.0m以上、短軸約0.6~1.1m、深さ約5~20cmを測る。S D01に切られてより東は二又に分かれている。調査区中央～東端まで確認でき、そのまま調査区外へ延びると考えられる。出土遺物は、近世瓦、近世陶磁器である。具体的な遺構の性格は不明であるが、瓦溜りと考えられる S D01より遺物の出土量が少ないため、瓦溜りではないと思われる。

第2項 土坑（S K）

ここでは、遺物が出土した瓦溜りおよび土坑について記述する。

S K07は調査区西側で検出された瓦溜りである。長軸2.15m、短軸1.45mを測り、北側は深さ約65cm、南側は深さ約30cmと土坑は北側と南側で深さが異なる。出土遺物は、肥前陶磁の染付（9・15）と近世瓦、近世陶磁器である。遺構の性格としては、近世の瓦溜りと考えられる。

S K10は調査区西側で検出された。長軸約0.4m、短軸約0.3m、深さ約10cmを測る。出土遺物は、近世土師器皿（1）、古代土師器、中世土師器片である。遺構の規模は小さく、出土遺物の時期幅がある。遺構の性格は、柱穴もしくは、浅い土坑が部分的に検出されたと考えられる。

S K22は調査区西側で検出された瓦溜りである。長軸約2.1m、短軸約1.8m、深さ約15cmを測る。出土遺物は、青磁壺（3）、肥前陶磁の染付（7・12）、石製硯（24）、近世瓦、近世陶磁器である。日用品と考えられる近世陶磁器類と共に石製硯や近世瓦が検出されたことから、近世の瓦溜りと考えられる。

第5節 遺物

第1項 陶磁器

出土遺物の多くは、瑞龍寺が造営され、活動した近世の遺物である。1は近世の土師器皿で、SK10から出土した。2は肥前陶磁の狭口短瓶壺で、表土から出土した。3は青磁の壺で、SK22から出土した。破片であるが、頸部～体部のみ残り、肥厚である。4～15は肥前陶磁の染付椀である。4～6、8、10・11、13・14は表土から、7・12はSK22から、9・15はSK07からそれぞれ出土した。特徴的なものとして、13は側面に“山”と染付が確認でき、見込みには中央に大きく梅鉢文が入ることから、詳細な時期は不明だが、瑞龍寺で使われた陶磁器類の可能性が高い。16は肥前陶磁の小形の水差しか。表土から出土した。過去の調査でも、同様の遺物が出土している。

第2項 瓦

出土した瓦は燃し瓦と釉瓦（赤釉・黒釉）がある。ここでは、残りが良く、図化できる資料を図示する。17～23は近世瓦。17は赤釉薬の丸瓦で、表土から出土した。完形で凹面は吊り紐痕と内叩き痕が確認できる。凸面は簡部・玉縁部とも赤釉が施釉される。18は燃し瓦の輪違い瓦で、表土から出土した。凹面は横方向のケズリ、凸面はクテナデ。19は燃し瓦の菊丸瓦で、表土から出土した。瓦当部分がほぼ完存し、文様は8弁の菊花文で、間弁が付くものである。20は黒釉の平瓦で、表土から出土した。凹面に丁寧なナデの上に黒釉がかかり、凸面には丁寧なナデの上に端部のみ黒釉がかかる。21・22は燃し瓦の平瓦。刻印瓦で、SD01から出土した。21は端部に田字、22は匁の刻印をもつ。23は鬼丸瓦で、SD01から出土した。24は石製硯で、SK22から出土した。個人用の風字硯で時期不明であるが、三角錐状の脚が2点確認できる。よく使用され、研磨される。

第6節 総括

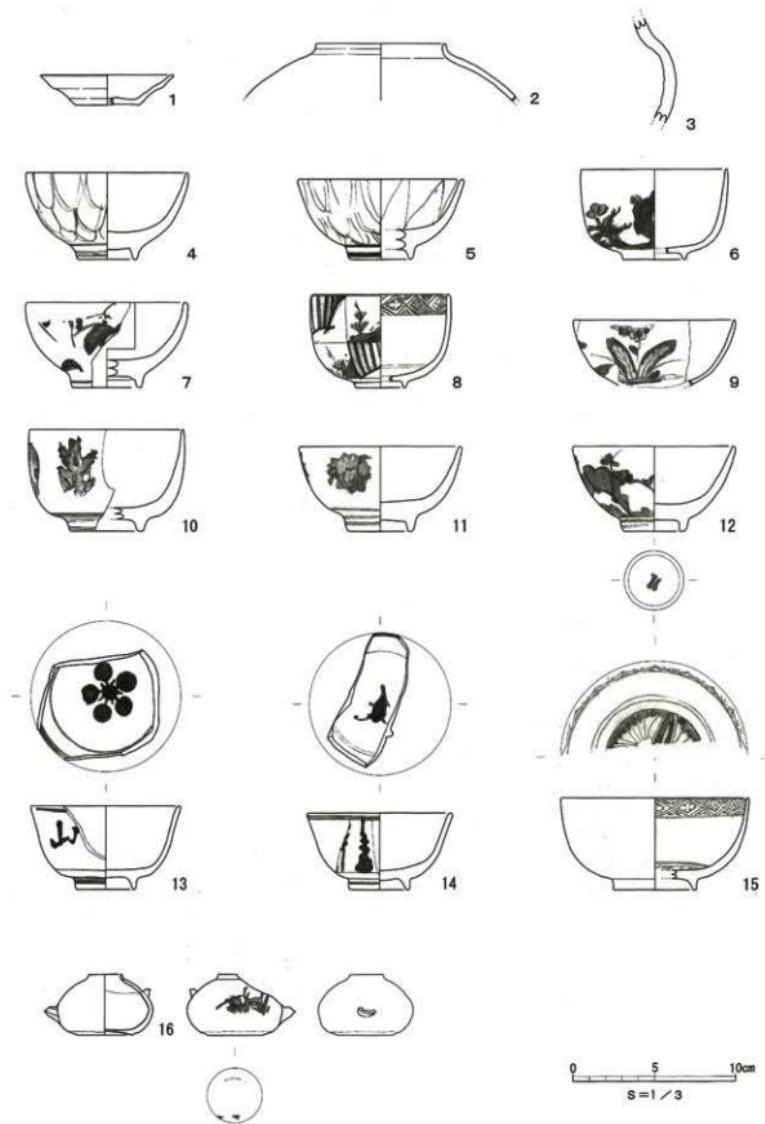
瑞龍寺遺跡の西側では数件の発掘調査が行われてきたが、近世の瓦溜りを検出したのは、本調査区と齊山地区のみである。2地点の比較から、瑞龍寺内堀想定線西端の状況を探り、本調査区の総括としたい。

本調査区で出土する近世瓦は、燃し瓦・釉瓦双方がある。西井氏の分類（西井2001）に従えば、大きく3種類に分類される。①燃し瓦で凸面に離れ砂を併用するもの、②やや小ぶりで薄く、凸面に5～6条の横目をたすきがけするもの、そして③釉瓦で暗褐色の鉄釉が施釉されたものがある。①はII～III-1期のものと考えられ、法円寺を転用し、瑞龍院を再建した時期のものと考えられる。②・③は延享三年（1776）の瑞龍寺の浴室出火後の再建に使われた瓦と考えられ、③は越中周辺では、主に19世紀になって生産されたものと考えられている。

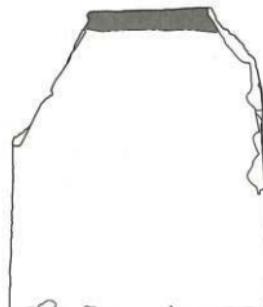
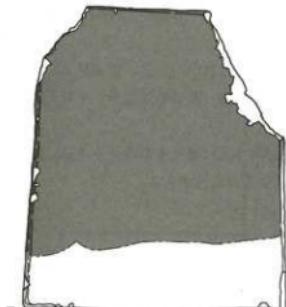
本調査区の試掘調査・本調査に共通して出土する瓦の大半は②・③であり、18世紀後半以降の資料が中心である。齊山地区においても、同時期の近世瓦の出土が見られる。

検出面や検出遺構の特徴から見ると、本調査区は整地層が確認できず、瓦溜り・土坑は地山を掘り込む。加えて、明確な寺院施設と考えうる遺構は確認できなかった。一方、齊山地区は整地層と考えられる茶褐色粘質土・赤褐色粘質土が存在し、整地層上面にて近世の礎石建物や瓦溜りが検出される。特に整地層の有無は大きな違いであり、近接した2地点の性格を示すと考える。

本調査区においては、整地層が確認されないことに加え、SD01は現代までの遺物が混入している状況を考えると、瑞龍寺の使用された瓦や陶磁器等を集中して投棄した場所である可能性が高いと考えられる。



第5図 瑞龍寺遺跡（早借地区）遺物実測図（1）



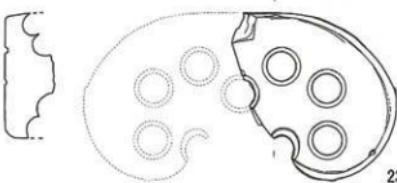
19

18



0 5 10cm
 $S = 1/3$
(掲載番号 : 19)

0 5 10cm
 $S = 1/6$
(掲載番号 : 17・18・20)



23

0 5 10cm
 $S = 1/2$ (掲載番号 : 21・22)



22



24

0 5 10cm
 $S = 1/4$ (掲載番号 : 23・24)

第6図 瑞龍寺遺跡（早借地区）遺物実測図（2）

1. 出来田南遺跡（大和情報サービス地区）

所 在 地 高岡市出来田 256 番 1、257 番、229 番 4
調査期間 平成 27 年 4 月 13 日～15 日、18 日～20 日
対象面積 2,566m²
試掘坑 5 本
発掘面積 約 259.34m²
調査原因 店舗建設
検出造構 掘立柱建物 1 棟、溝 3 条、土坑 15 基以上
出土造物 古代土師器（碗・壺 他）、古代須恵器（杯 A、B・壺・壺・はそう他）、黒色土器、中世珠洲（壺）
中世漬戸（碗）、越前（壺）、時期不明土師器など

調査概要

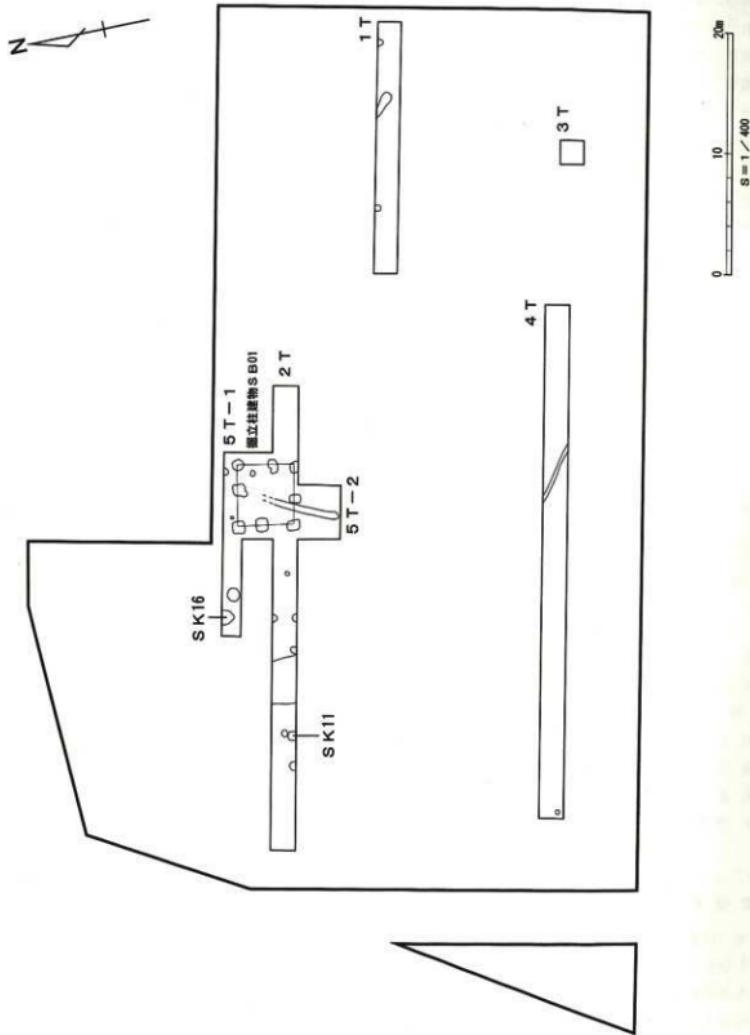
本地点は遺跡の北側に位置する。過年度の高岡市教育委員会による試掘調査と県道能町庄川線建設に伴う本発掘調査の結果、奈良・平安時代の掘立柱建物群や竪穴建物、大溝などが検出され、文字資料や多量の土器類、祭祀具なども出土している。

調査は対象地に試掘坑を 5 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 20～30cm、標高約 9.6～9.8m 付近で地山（褐色砂質土及び褐色粘質土）を確認した。地山の上層に堆積する包含層（黒褐色粘質土）や地山直上で遺物が出土し、遺構は掘立柱建物 1 棟、溝 3 条、土坑 15 基以上が検出された。

古代の集落が検出され、掘立柱建物 1 棟とその他土坑や溝が検出された。建物は更に増える可能性がある。掘立柱建物 S B 01 は 2 間（約 5.0m）× 2 間（約 4.5 m）の側柱の建物で、北側に延びる可能性がある。



第 7 図 出来田南遺跡（大和情報サービス地区）調査区位置図



第8図 出来田南遺跡（大和情報サービス地区）トレンチ配置図

検出遺構

掘立柱建物SB 01は2T・5Tで検出された。2間(約5.0m)×2間(約4.5m)の側柱建物で、北側に延びる可能性がある。柱穴の径は約60~80cm、平面形は隅丸方形ないし不整梢円形であり、既往調査で検出された柱穴と同等の規模であった。建物主軸は磁北であり、西側隣接地において富山県文化振興財団が行った本発掘調査で検出された掘立柱建物SB 28とはほぼ同じ主軸となる。柱穴から古代須恵器片のみが出土したことから古代の建物であると判断した。

検出遺物

出土した遺物は古代須恵器と古代土師器である。ここでは、残りの良い図化できる資料を図示する。25は古代須恵器(杯A)であり、5TのSK 16から出土した。外面と内面にヨコナデ調整、底部にヘラ切りを施す。26は古代須恵器(杯A)であり、2Tの表土から出土した。外面と内面にヨコナデ調整、底部にヘラ切りを施す。27は古代土師器(小型壺)であり、2TのSK 11から出土した。口縁部外面に板ナデ後ヨコナデ、頸部外面に板ナデ後ヨコ板ナデ、体部外面に板ナデ・ヨコケズリ後ヨコナデ、底部外面にヨコケズリ後ナデ・ケズリ調整を施す。また使用により頸部~口縁部内面、口縁部外面まで黒煤が付着している。



第9図 出来田南遺跡(大和情報サービス地区) 遺物実測図

2. 下北島住吉遺跡(高木地区)

所 在 地	高岡市北島字住吉139-2
調査期間	平成28年4月26日
対象面積	297m ²
試掘坑	1本
発掘面積	約13.50m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第10図 調査区位置図

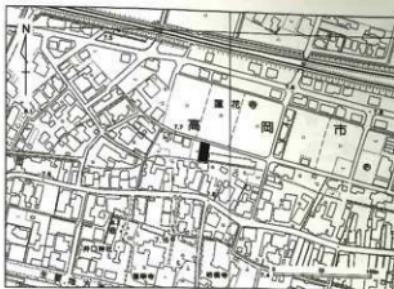
調査概要

本地点は遺跡の北側に位置する。縄文時代から古墳時代の包蔵地として周知されていたが調査歴がなく、初の試掘調査となる。

調査は対象地に試掘坑を1箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約50cm、標高約10.5m付近で地山(黄褐色粘質土)を確認し、遺構・遺物は検出されなかった。

3. 蓮花寺遺跡（トラストホーム地区）

所 在 地	高岡市蓮花寺 457 番 1
調査期間	平成 28 年 4 月 28 日
対象面積	146.24m ²
試掘坑	1 本
発掘面積	約 8.47m ²
調査原因	分譲住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 11 図 調査区位置図

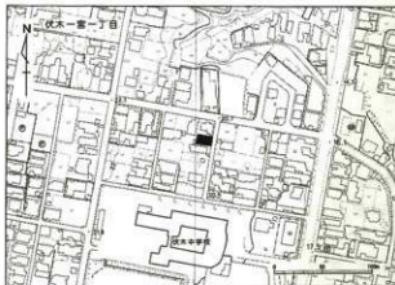
調査概要

本地点は遺跡の南側に位置する。古代・中世の遺物の出土はあるが、明確な遺構は検出されていない。平成 26 年度には隣の地区を試掘しており、溝を 1 条検出している。

調査は対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 50cm、標高約 7.3m 付近で地山（青灰色及び黄褐色砂質土）を確認し、遺構・遺物は検出されなかった。

4. 越中国府関連遺跡（金森地区）

所 在 地	高岡市伏木一宮一丁目 677 番 2
調査期間	平成 28 年 5 月 6 日
対象面積	167m ²
試掘坑	1 本
発掘面積	約 8.46m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 12 図 調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の中央に位置する。近隣では平成 16 年に「武内地区」が調査されており、古代土器が出土している。また、平成 23 年に「能松地区」が調査されており、性格不明遺構 1 基が検出されている。

調査は対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、遺構・遺物は検出されなかった。

第 1 トレンチ東側で地表面下約 15cm、標高 20.50m 付近で地山（赤褐色粘質土）を検出し、西側では地表面下約 60cm、標高約 20m 付近で地山（白色砂質土）を検出したことから、地山は東から西へかけて緩やかに傾斜していることが確認できた。

5. 赤祖父羽佐間遺跡（カネコ・コーポレーション地区）

所 在 地	高岡市赤祖父 83
調査期間	平成 28 年 5 月 17 日～19 日
対象面積	2,000m ²
試掘坑	3 本
発掘面積	約 202.36m ²
調査原因	盛土造成
検出遺構	溝 5 条、土坑 4 基
出土遺物	古代土師器（杯・壺など）、古代須恵器（壺など）、土製品（土錐）



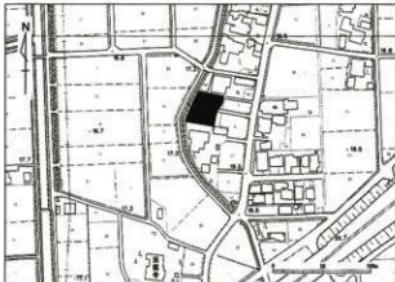
第 13 図 調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の西側に位置する。周辺の試掘結果では、中世前半の集落や、古代～中世の遺物が確認されている。調査は対象地に試掘坑を 3 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 20 ～ 30cm、標高約 8.6m 付近で地山（灰褐色粘質土）を確認した。遺構は土坑 4 基、溝 5 条が検出され、遺物は古代土師器（壺他）、古代須恵器（杯・壺他）、土製品（土錐）が出土した。そのうち、第 2 トレンチの溝 S D 02 から古代須恵器が出土した。

6. 下老子笹川遺跡（永原地区）

所 在 地	高岡市福岡町下老子 303
調査期間	平成 28 年 5 月 24 日
対象面積	1,025.23m ²
試掘坑	2 本
発掘面積	約 4.45m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 14 図 調査区位置図

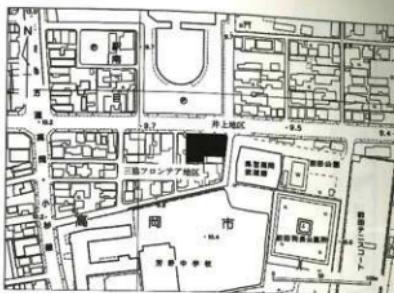
調査概要

本地点は遺跡の南西に位置する。能越自動車道と北陸新幹線の建設に伴う本発掘調査の結果、弥生後期から古墳時代の集落や水田が検出されている。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 110 ～ 120cm、標高約 16.7 ～ 16.8m 付近まで掘り下げたところ、黒色礫層が続いている。この層は近現代の造成土と考えられ、遺構・遺物は確認できなかった。地点の東では、平成 25 年度に高田地区の調査が行われており、地表下約 40cm、標高約 17.9m で褐色砂質土の地山を確認していることから、本調査区は近現代の擾乱を受けていると考えられる。

7. 前田墓所遺跡（三協フロンティア地区・井上地区）

(三協フロンティア地区)(井上地区)		
所 在 地	高岡市駅南二丁目 333番、334番	高岡市駅南二丁目 335番
調査期間	平成28年5月27日	6月30日
対象面積	550.27m ²	507.07m ²
試掘坑	2本	2本
発掘面積	約29.0m ²	約23.5m ²
調査原因	集合住宅建設	集合住宅建設
検出遺構	なし	なし
出土遺物	なし	なし
調査概要		



第15図 調査区位置図

本地点は前田墓所遺跡の外堀北西隅から西へ約40mに位置する。また、古代における東大寺領鳴戸庄の比定地（金田説）でもあり、開田図に示される「三宅」の周辺地の可能性が指摘される（根津2007）。

三協フロンティア地区の調査は対象地に試掘坑を2箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約75～80cm・標高約8.8m付近で地山（灰褐色粘質土）を確認し、遺構・遺物は検出されなかった。

井上地区的調査は対象地に試掘坑を2箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約75～85cm・標高約8.9～9.0m付近で地山（灰褐色粘質土）を確認し、遺構・遺物は検出されなかった。

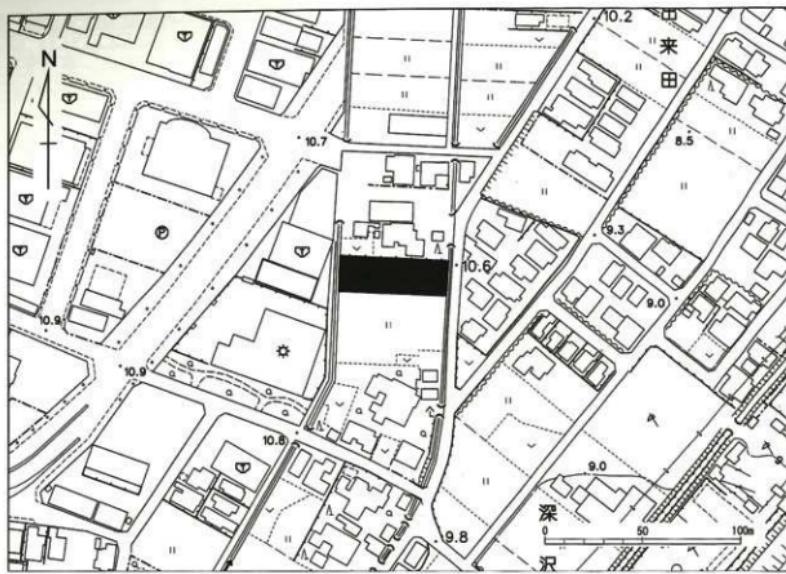
8. 出来田南遺跡（桜野地区）

所 在 地	高岡市出来田146番1
調査期間	平成28年6月6日～10日、13日～15日
対象面積	996.38m ²
試掘坑	4本
発掘面積	約166.85m ²
調査原因	集合住宅建設
検出遺構	掘立柱建物4棟以上、溝11条、土坑9基以上
出土遺物	古代土師器（杯・甕・長胴甕など）、古代須恵器（杯A、B・蓋・甕・壺・瓶・横瓶など）、古代黒色土器、中世青磁（壺）、中世瀬戸（碗・壺など）、中世越前（甕）、近世肥前陶磁器、時期不明土師器など
調査概要	

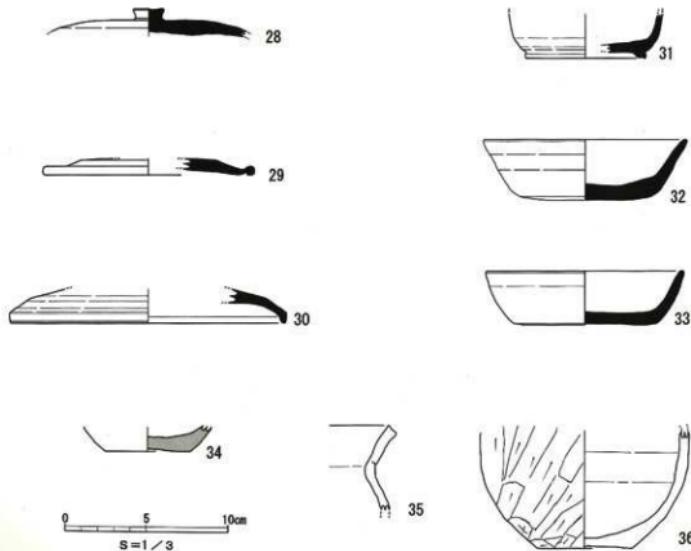
本地点は遺跡の北側に位置する。過年度の高岡市教育委員会による試掘調査と県道能町庄川線建設に伴う本発掘調査の結果、奈良・平安時代の掘立柱建物群や竪穴建物、大溝などが検出され、文字資料や多量の土器類、祭祀具なども出土している。

調査は対象地に試掘坑を4箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約20～30cm・標高約9.8～10.1m付近で地山（黄褐色粘質土）を確認した。遺構は掘立柱建物4棟以上、溝11条、土坑9基以上が検出され、遺物は古代土師器（杯・甕・長胴甕など）、古代須恵器（杯A、B・蓋・甕・壺・瓶・横瓶など）、古代黒色土器、中世青磁（壺）、中世瀬戸（碗・壺など）、中世越前（甕）、近世肥前陶磁器、時期不明土師器などが検出された。

主に古代の集落が検出され、掘立柱建物4棟以上とその他土坑や溝が検出された。建物は更に増える可能性がある。検出された掘立柱建物の構造は3間×2間の側柱構造と想定され、磁北を指向した建物群が中心である。また富山県文化振興財団の本発掘調査の掘立柱建物S B 28とはほぼ同じ主軸となる。柱穴の径は約60～80cm、平面形は隅丸方形状ないし不整梢円形であり、既往の調査で検出された柱穴と同等の規模であった。

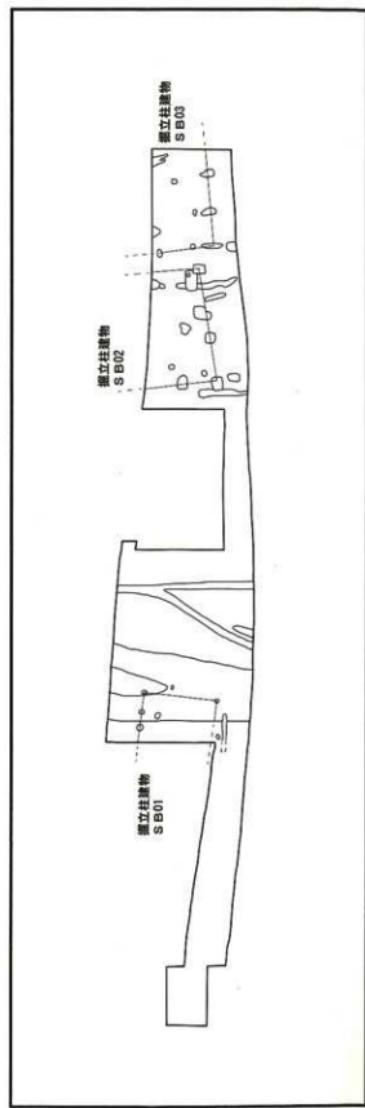


第16図 出来田南遺跡（桜野地区）調査区位置図



第17図 出来田南遺跡（桜野地区）遺物実測図

N +

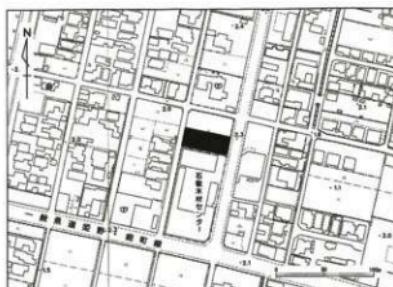


10m
S = 1/250

第18図 出来田南遺跡（桜野地区）トレンチ配置図

9. 中曾根北遺跡（石敬商事地区）

所 在 地	高岡市中曾根 121-1
調査期間	平成 28年 6月 15日
対象面積	908m ²
試掘坑	3本
発掘面積	約 8.5m ²
調査原因	駐車場造成
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第19図 調査区位置図

調査概要

本地点は、遺跡の南東に位置する。

調査は対象地に試掘坑を3箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約100～130cm、標高約0.1～0.6m付近まで掘り下げたが、隣接のチューリップ調剤地区で検出された青灰色粘質土の地山ではなく、灰色粘質土が続いている。湿地状の地形が広がっていたと考えられる。

10. 越中国府関連遺跡（田口地区）

所 在 地	高岡市伏木東一宮 830番1の一部、 831番、831番2の一部
調査期間	平成 28年 6月 17日
対象面積	332.06m ²
試掘坑	2本
発掘面積	約 14.35m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第20図 調査区位置図

調査概要

本地点は、遺跡の中央東側の台地に位置しており、二上山丘陵の麓になる。

調査は対象地に試掘坑を2箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約120cm、標高約8.0～8.6m付近で地山（膠混じりの褐色砂質土）を確認し、遺構・遺物は検出されなかった。

11. 守護町遺跡（古川地区）

所 在 地	高岡市守護町2丁目256番1
調査期間	平成28年7月12日
対象面積	333m ²
試掘坑	2本
発掘面積	約10.2m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第21図 調査区位置図

調査概要

本地点は、遺跡の南側に位置する。過年度の調査では、遺構、遺物ともに検出されていない。

調査は対象地に試掘坑を2箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約130～140cm、標高約2.6m付近で地山（小砾混じりの灰色砂質土）を確認し、河川堆積層と考えられる。遺構・遺物は検出されなかった。

12. 釈迦堂古墳群（日本海鉱業地区）

所 在 地	高岡市月ノ谷字白山 2番1、高辻字白山 2番1、月野谷字大谷内30、31
調査期間	平成28年7月12日、15日、19日、 20日
対象面積	4.321m ²
試掘坑	5本
発掘面積	約64.05m ²
調査原因	土砂採取
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第22図 調査区位置図

調査概要

本古墳群は男傍古墳群から続く尾根沿いの、月野谷の谷頭に位置する。全長34mの前方後方墳1基と径6m程度の円墳があり、前方後方墳は土取りのため消滅したとされる。今回は前方後方墳の残存状況と円墳の実態を確認した。

調査は対象地に試掘坑を5箇所設定し、地下の状況を把握したところ、遺構・遺物は検出されなかった。

前方後方墳側の第1・2トレンチでは、地表面下約10～45cm、標高約89.6～90.9m付近で地山（小砾混じりの黄褐色砂質土）を確認した。盛土や周溝等の痕跡は認められなかったため、前方後方墳の残存部は確認できなかった。

円墳側の第3・4トレンチでは、地表面下約20～90cm、標高約87.9～89.9m付近で地山（黄褐色砂質土）を確認した。また、尾根上の古墳の有無を確かめるため設定した第5トレンチでは、地表面下約50cm、標高約89.8～90.0m付近で地山（黄褐色砂質土）を確認した。円墳主体部、周溝、盛土、切土の痕跡が認められなかったため、古墳ではないと判断した。

13. 前田墓所遺跡（西森地区）

所 在 地	高岡市大野 131 番 1、132 番 1
調査期間	平成 28 年 7 月 19 日
対象面積	662m ²
試掘坑	2 本
発掘面積	約 6.6m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	溝 1 条（前田墓所遺跡の外堀）
出土遺物	なし



第 23 図 調査区位置図

調査概要

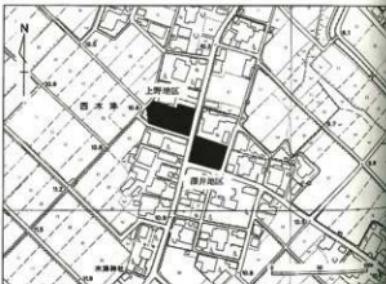
本地点は前田墓所遺跡の東端に位置する。平成 18 年度の調査では、前田墓所遺跡の外堀を検出しており、本地点はその延長線上にあたるため、外堀の痕跡が検出される可能性が高い。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、調査区西側の第 1 トレンチでは溝 1 条を検出したが、遺物は検出されなかった。調査区東側の第 2 トレンチでは遺構、遺物は検出されなかった。

第 1 トレンチは、地表面下約 100cm、標高約 8.6m 付近でめくら砂と呼ばれる地山（灰色砂質土）を確認した。このめくら砂を掘り込むようにトレンチ西端に向かって溝（SD 01）が掘り込まれていた。この溝は前田墓所遺跡の外堀の痕跡だと推定される。第 2 トレンチは、地表面下約 100 ~ 120cm、標高約 10.0 ~ 10.2m 付近で地山（暗灰色砂質土）を確認した。

14. 中木津遺跡（上野地区・澤井地区）

（上野地区）		（澤井地区）
所 在 地	高岡市木津 847 番 1	高岡市木津 849 番 1
調査期間	平成 28 年 8 月 1 日	8 月 18 日
対象面積	1,004m ²	約 877.12m ²
試掘坑	2 本	2 本
発掘面積	約 15.68m ²	約 11.39m ²
調査原因	個人住宅建設	個人住宅建設
検出遺構	なし	なし
出土遺物	なし	なし



第 24 図 調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の北側に位置する。周辺は市道建設や土地区画整理による本発掘調査が行われ、古代・中世の土坑・溝などが検出されている。

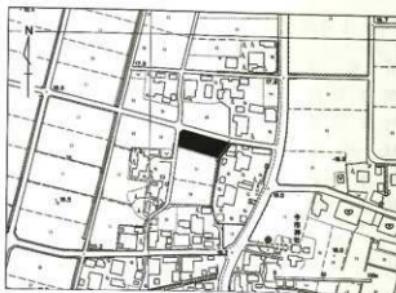
上野地区的調査は対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 60 ~ 70cm、標高約 10.2 ~ 10.3m 付近で地山（黄褐色砂質土）を確認し、遺構・遺物は検出されなかった。

澤井地区的調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、遺構・遺物は検出されなかった。

調査区南側の第 1 トレンチでは、地表面下約 75cm、標高約 10.5m 付近で地山（黄褐色粘質土）を確認した。調査区北側の第 2 トレンチでは、地表下約 90cm、標高約 9.8m 付近で地山（青灰色粘質土）を確認した。第 2 トレンチは地山の標高が低いため水が溜まり、黄褐色粘質土がグライ化作用により青灰色粘質土に変化したと考えられる。

15. 今市遺跡（柴地区）

所 在 地	高岡市今市 52 番 1
調査期間	平成 28 年 8 月 24 日
対象面積	564m ²
試掘坑	2 本
発掘面積	約 24.57m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 25 図 調査区位置図

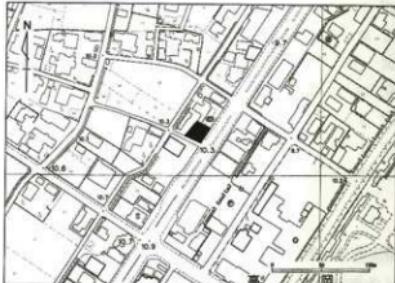
調査概要

本地点は遺跡の東端に位置する。農道改修工事及び個人住宅建設に伴う試掘調査の結果、弥生土器、土師器、須恵器、珠洲などが出土し、土坑や溝が検出されている。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 140 ~ 160cm、標高約 163 ~ 16.5m 付近まで掘り下げたところ、灰褐色粘質土が読んでおり、遺構・遺物は検出されなかつたため湿地状の地形が広がっていたと考えられる。

16. 下佐野遺跡（消防分団地区）

所 在 地	高岡市佐野 963-1
調査期間	平成 28 年 8 月 25 日
対象面積	506.12m ²
試掘坑	1 本
発掘面積	約 14.6m ²
調査原因	消防分団器具置場建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 26 図 調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の東側隣接地に位置する。付近では北陸新幹線建設に伴う本発掘調査の結果、弥生時代終末期～古墳時代前期の前方後方墳・方墳・方形周溝墓・竪穴住居などが検出されている。また古代から中世の掘立柱建物・溝なども検出されている。

調査は対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 140cm、標高約 9.0m 付近まで掘り下げたが、近現代の造成土が厚く堆積していた。造成土中に遺物は検出されなかつた。

本地点は遺跡が所在する佐野台地の縁辺部にあたり、地山は検出できなかつたが、過去の周辺の調査結果から考えると深い河川や谷部と考えられる。

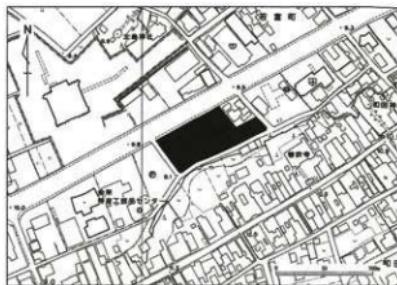
17. 下北島住吉遺跡 (IDOM 地区)

所 在 地	高岡市北島字蓮花 165-1 外 18 箇
調査期間	平成 28 年 9 月 6 日、7 日、9 日
対象面積	3,533.48m ²
試掘坑	7 本
発掘面積	約 113.7m ²
調査原因	店舗建設
検出遺構	なし
出土遺物	古代須恵器片、中世珠洲（擂鉢） 近世越中瀬戸（椀）、時期不明土師器、 白磁片など

調査概要

本地点は遺跡の北側隣接地に位置する。平成 2 年の高岡市教育委員会による分布調査で、縄文時代から古墳時代までの遺物の散布が確認されている。既往の調査では溝や土坑が検出されているが遺物は出土していない。

調査は対象地に試掘坑を 7 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 20 ~ 80cm、標高約 8.1 ~ 8.7m 付近で地山（褐色粘質土及び青灰色粘質土）を確認した。遺構は検出されず、遺物は古代須恵器片、中世珠洲（擂鉢）、時期不明土師器、近世越中瀬戸（椀）、時期不明土師器片、時期不明白磁片他が出土した。



第 27 図 調査区位置図

18. 赤祖父羽佐間遺跡 (リヴウェル地区)

所 在 地	高岡市赤祖父 117
調査期間	平成 28 年 9 月 13 日 ~ 14 日
対象面積	1,890m ²
試掘坑	3 本
発掘面積	約 124.5m ²
調査原因	宅地造成
検出遺構	なし
出土遺物	古代須恵器（蓋・杯 B ・甕）、古代土師器（鉢）、中世珠洲（甕）、中世土師器片、時期不明土師器片など

調査概要

本地点は遺跡の北東に位置する。周辺の試掘結果では中世前半の集落や、古代～中世の遺物が見つかっている。

調査は対象地に試掘坑を 3 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 20 ~ 25cm、標高約 7.9m 付近で地山（青灰色粘質土）を確認した。第 2 トレンチ北側と第 3 トレンチからは河川堆積と考えられる黒色シルトが検出され、遺物は古代須恵器（蓋・杯 B ・鉢・甕）、古代土師器（甕）、中世珠洲（甕）、中世土師器片、時期不明土師器片等が出土している。



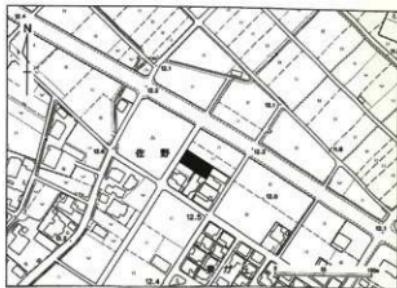
第 28 図 調査区位置図



第 29 図 赤祖父羽佐間遺跡 (リヴウェル地区) 遺物実測図

19. 東木津遺跡（酢谷不動産地区）

所 在 地	高岡市佐野 859-1、859-2
調査期間	平成 28 年 9 月 15 日
対象面積	456.17m ²
試掘坑	4 本
発掘面積	約 20.0m ²
調査原因	宅地造成
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 30 図 調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の西側に位置する。周辺の調査では、道路を挟んで西に位置する田中医院地区から古代の道路・掘立柱建物・溝・土坑などの遺構が検出され、土師器・須恵器・墨書き器などの遺物が出土している。

調査は対象地に試掘坑を 4 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 80 ~ 100cm、標高約 12.6 ~ 12.8m 付近で地山（黄褐色粘質土）を確認し、遺構・遺物は検出されなかった。

20. 出来田南遺跡（上田地区）

所 在 地	高岡市出来田 147 番 1
調査期間	平成 28 年 9 月 21 日、23 日、27 日、28 日、30 日
対象面積	995m ²
試掘坑	4 本
発掘面積	約 235.83m ²
調査原因	宅地造成
検出遺構	横列 1 条、溝 11 条、土坑 24 基以上
出土遺物	古代土師器（甕・杯など）、古代須恵器（蓋・杯 B ・甕・長頸壺・横瓶など）、中世珠洲（擂鉢） 中世越前片、時期不明土師器・木製品・石製品（砥石）など

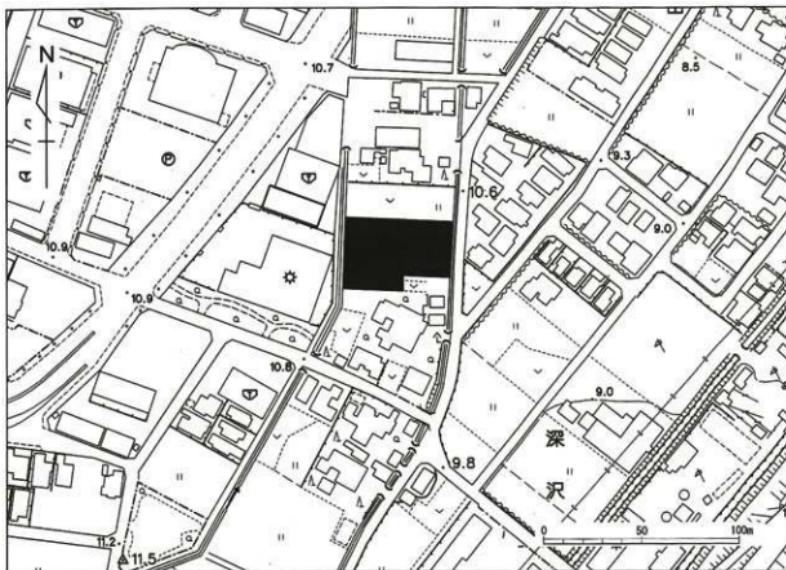
調査概要

本地点は遺跡の南側に位置する。過年度の高岡市教育委員会による試掘調査と県道能町庄川線建設に伴う本発掘調査の結果、奈良・平安時代の掘立柱建物群や竪穴建物、大溝などが検出され、文字資料や多量の土器類、祭祀具などが出土している。北側に隣接する地区では、掘立柱建物が検出された。

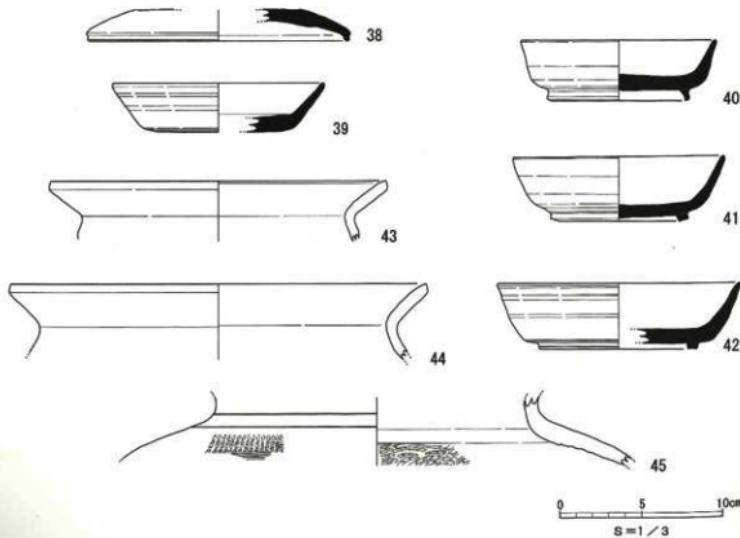
調査は対象地に試掘坑を 4 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 20 ~ 80cm、標高約 9.8 ~ 10.4 m 付近で地山（褐色粘質土）を確認した。表土下に堆積する黒褐色土や地山直上で遺物が出土し、遺構は横列 1 条、溝 11 条、土坑 24 基以上が検出された。遺物は、古代土師器（甕・杯 B など）、古代須恵器（蓋・杯 B ・甕・長頸壺・横瓶など）、中世珠洲（擂鉢）、中世越前片、時期不明土師器片、木製品、石製品（砥石）などが出土した。

主な土坑や溝は古代に帰属するものである。中世に関しては、明確な遺構は確認できないものの、一定量の遺物が確認されることから、付近に中世の集落の存在が想定される。

検出された横列の構造は、東西を指向したものである。周辺に同様の土坑があることから、建物になるかどうか周辺の調査結果との検討が必要となる。



第31図 出来田南遺跡（上田地区）調査区位置図



第32図 出来田南遺跡（上田地区）遺物実測図

21. 下老子笹川遺跡（本領建設工業地区）

所在地 高岡市福岡町下老子 550 番 1
 調査期間 平成 28 年 10 月 5 日
 対象面積 1,924m²
 試掘坑 2 本
 発掘面積 約 120.0m²
 調査原因 宅地造成
 検出遺構 自然流路 2 条
 出土遺物 なし



第 33 図 調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の東側に位置する。能越自動車道と北陸新幹線の建設とともに本発掘調査の結果、弥生時代後期～古墳時代の集落や水田が検出された。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 20cm、標高約 16.0m 付近で地山（灰褐色粘質土）を確認した。遺構は自然流路 2 条が検出され、遺物は出土しなかった。

22. 井口本江遺跡（ア・ライズ地区）

所在地 高岡市出来田 246-1, 247-1, 248-1
 調査期間 平成 28 年 10 月 11 日、12 日
 対象面積 1,023m²
 試掘坑 5 本
 発掘面積 約 40.9m²
 調査原因 駐車場造成
 検出遺構 なし
 出土遺物 古代須恵器（杯 B・杯）、古代須恵器片
 古代土師器片・中世青磁（器種不明）など

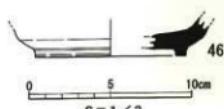


第 34 図 調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の南東に位置する。過年度の富山県文化振興財團による本発掘調査の結果、縄文晩期から近世まで断続的に遺構・遺物が検出されている。本地点周辺では古代と中世の集落が確認されている。

調査は対象地に試掘坑を 5 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 20 ～ 30cm、標高約 9.4 ～ 9.5m 付近で地山（黄褐色粘質土及び灰褐色粘質土）を確認した。遺構は検出されず、遺物は古代須恵器（杯 B・杯）、古代須恵器片、古代土師器片、中世青磁（器種不明）などが出土した。



第 35 図 井口本江遺跡（ア・ライズ地区）遺物実測図

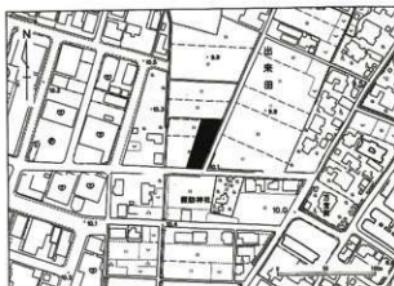
23. 出来田南遺跡（ア・ライズ地区）

所 在 地	高岡市出来田 249-1、250-1、251-1
調査期間	平成 28 年 10 月 12 日、13 日
対象面積	673m ²
試掘坑	1 本
発掘面積	約 47.9m ²
調査原因	駐車場造成
検出遺構	溝 2 条、土坑 3 基
出土遺物	古代赤彩土師器片・古代土師器片 古代須恵器（杯 B）・中世珠洲（擂鉢） など

調査概要

本地点は遺跡の北側に位置する。本遺跡は古代～中世の集落跡とされ、遺跡中央～南側にて遺構・遺物が確認されている。特に、県道能町庄川線とその周辺では、古代集落と文字資料が多く出土している。庄川と和田川の合流地点左岸に位置し、古代の東大寺領莊園鳴戸荘の関連も指摘されるる地点である。

調査は対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 20 ～ 40cm、標高約 8.8 ～ 9.3m 付近で地山（黄褐色粘質土）を確認した。遺構は溝 2 条、土坑 3 基などが検出され、遺物は古代赤彩土師器片・古代土師器片・古代須恵器（杯 B）、中世珠洲（擂鉢）などが出土した。



第 36 図 調査区位置図

24. 瑞穂町遺跡（出木野屋地区）

所 在 地	高岡市瑞穂町 156-10, 156-11, 156-12
調査期間	平成 28 年 10 月 14 日
対象面積	224.16m ²
試掘坑	2 本
発掘面積	約 8.0m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 37 図 調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の東側に位置する。周辺の調査では、弥生時代～中世の遺物が出土している他、古墳後期の遺構等が検出されている。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 90cm、標高約 7.8m 付近で地山（青灰色粘質土）を確認し、遺構・遺物は検出されなかった。

25. 中曾根西遺跡（山森運輸地区）

所 在 地	高岡市中曾根 2858-1、2858-2 の一部、 2859 の一部
調 査 期 間	平成 28 年 10 月 18 日
対 象 面 積	597.74m ²
試 挖 坑	3 本
発 挖 面 積	約 6.7m ²
調 査 原 因	店舗建設
検 出 遺 構	なし
出 土 遺 物	なし



第 38 図 調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の北側に位置する。周辺の調査では弥生中期～後期の集落や縄文時代～中世の遺物が検出されている。近年、土地区画整理が進行し、発掘調査の成果が徐々に積み重ねられている。

調査は対象地に試掘坑を 3 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 180 ～ 195cm、標高約 0.1 ～ 0.3m 付近で地山（青灰色砂質土）を確認し、遺構・遺物は検出されなかった。

26. 上北島遺跡（石浦地区）

所 在 地	高岡市上北島 352-1 の一部
調 査 期 間	平成 28 年 10 月 21 日
対 象 面 積	740.62m ²
試 挖 坑	2 本
発 挖 面 積	約 20.0m ²
調 査 原 因	集合住宅建設
検 出 遺 構	なし
出 土 遺 物	なし



第 39 図 調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の東側に位置する。周辺の調査では、弥生時代～中世の遺物が検出されているが、時期が判明している遺構はない。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 20 ～ 25cm、標高約 10.8m 付近で調査区北側の第 1 トレンチでは地山（疊混じり褐色粘質土及び疊層）、南側の第 2 トレンチでは地山（黄褐色粘質土）を確認し、遺構・遺物は検出されなかった。

27. 西佐野千代遺跡（黒越地区）

所 在 地	高岡市和田 1308
調査期間	平成 28 年 10 月 27 日
対象面積	281.72m ²
試掘坑	2 本
発掘面積	約 10.0m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 40 図 調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の北側に位置する。周辺の調査では、弥生時代から古代の遺構・遺物が検出されている。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 80cm、標高約 12.1m 付近で地山（灰褐色粘質土）を確認し、遺構・遺物は検出されなかった。

28. 下老子笹川遺跡（永原 2 地区）

所 在 地	高岡市福岡町下老子 462 番
調査期間	平成 28 年 11 月 4 日
対象面積	306m ²
試掘坑	2 本
発掘面積	約 7.0m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 41 図 調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の南西に位置する。周辺の調査では能越自動車道と北陸新幹線の建設に伴う本発掘調査の結果、弥生時代後期～古墳時代の集落や水田が検出されている。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表下約 35～45cm、標高約 17.1m 付近で地山（灰褐色粘質土）を確認し、遺構・遺物は検出されなかった。

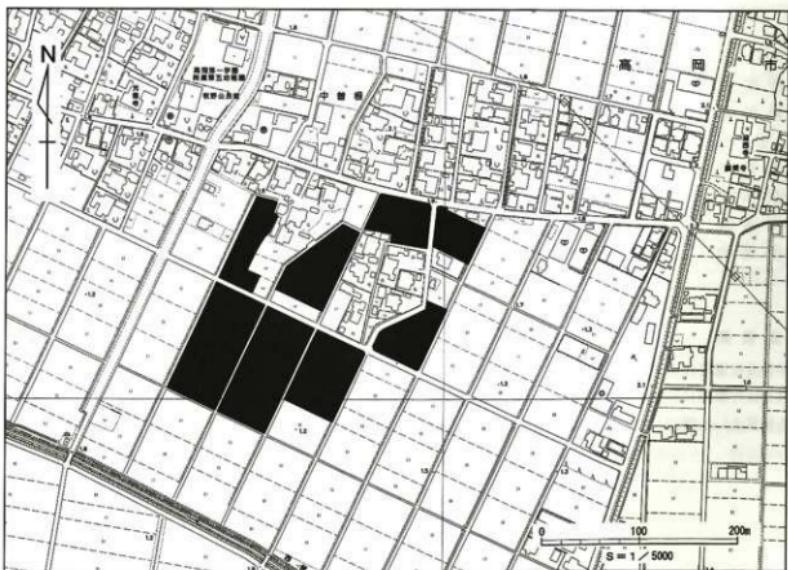
29. 中曾根遺跡（県道能町姫野線及び圃場整備地区）

所 在 地	高岡市中曾根 801 ほか 37 箇
調査期間	平成 28 年 11 月 14 日～18 日、23 日、25 日、28 日、平成 29 年 3 月 17 日、22 日～24 日、 28 日～30 日
対象面積	30,704m ²
試掘坑	38 本
発掘面積	約 325.31m ²
調査原因	圃場整備
検出遺構	溝 34 条、土坑 22 基、ピット 15 基
出土遺物	弥生土器・古墳土師器・古代須恵器・中世珠洲・近世陶磁器・時期不明土師器など

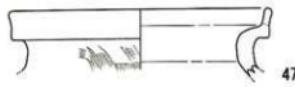
調査概要

本地点は遺跡の東側に位置している。周辺の試掘結果では弥生時代と古代・中世の遺構・遺物が検出されており、微高地に集落の存在が推定される。

調査は対象地に試掘坑を 14 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 10～60cm、標高 0.7～12m 付近で地山（青灰色粘質土）を確認した。また一部のトレーナーでは地表面下約 15cm、標高 1.0m 付近で地山（灰褐色砂質土）を検出した。遺構は溝 34 条、土坑 22 基、ピット 15 基を検出し、遺物は弥生土器・古墳土師器・古代須恵器・中世珠洲・近世陶磁器・時期不明土師器などが出土した。



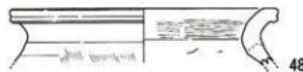
第 42 図 中曾根遺跡（県道能町姫野線及び圃場整備地区）調査区位置図



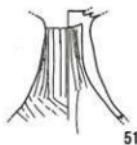
47



50



48



51



49

0 5 10cm
S=1/3

第43図 中曾根遺跡（県道能町姫野線及び圃場整備地区）遺物実測図

30. 江尻 A 遺跡（二塚地区）

所 在 地	高岡市江尻字村中 471-1
調査期間	平成 28年 11月 17日
対象面積	501m ²
試掘坑	1本
発掘面積	約 1.9m ²
調査原因	カーポート建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第44図 調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の北側に位置する。周辺の調査では古代～中世の溝や土坑、遺物が検出されている。

調査は対象地に試掘坑を1箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約90cm、標高約5.9m付近で地山（暗褐色粘質土）を確認し、遺構・遺物は検出されなかった。

31. 井口本江遺跡（市道18号地区）

所 在 地	高岡市出来田 305-1 番地 外 9筆
調査期間	平成29年2月3日 7日、9日、14日
対象面積	1,140m ²
試掘坑	7本
発掘面積	約 41.5m ²
調査原因	道路改良
検出遺構	なし
出土遺物	弥生土器、時期不明土師器・須恵器 (壺・杯)



第45図 調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の東側に位置する。過年度の富山県文化振興財団による本発掘調査の結果、縄文晩期から近世まで断続的に遺構・遺物が検出されている。本地点周辺では古代と中世の集落が確認されている。

調査は対象地に試掘坑を7箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約30~70cm、標高約8.5~9.0m付近で地山（灰褐色粘質土）を確認した。遺構は検出されなかったが、遺物は弥生土器、時期不明土師器・古代須恵器（壺・杯）が出土した。遺物については摩耗が激しいため流れ込みであると考えられる。

32. 井口本江遺跡（鉛井地区）

所 在 地	高岡市出来田 245番3
調査期間	平成29年2月28日
対象面積	563m ²
試掘坑	1本
発掘面積	約 20m ²
調査原因	集合住宅建設
検出遺構	土坑3基
出土遺物	古代須恵器片（杯など）、時期不明 土師器片



第46図 調査区位置図

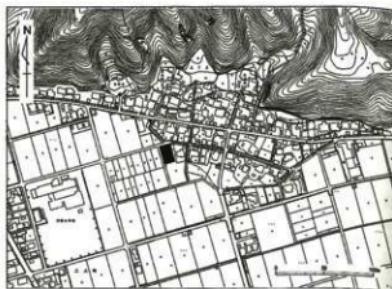
調査概要

本地点は遺跡の南側に位置する。過年度の富山県文化振興財団による本発掘調査の結果、縄文晩期から近世まで断続的に遺構・遺物が検出されている。本地点周辺では古代と中世の集落が確認されている。

調査は対象地に試掘坑を1箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約15~20cm、標高約9.8~9.85m付近で地山（黄褐色砂質土）を確認した。遺構は土坑3基が検出され、遺物は古代須恵器片（杯など）、時期不明土師器片が出土した。

33. 上二上遺跡（中山地区）

所 在 地	高岡市二上町 722-1
調査期間	平成 29 年 3 月 1 日
対象面積	499m ²
試掘坑	2 本
発掘面積	約 7.25m ²
調査原因	店舗建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 47 図 調査区位置図

調査概要

本地点は、遺跡の北側に位置する。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 25 ~ 45cm、標高約 6.3 ~ 6.5m 付近で地山（明褐色粘質土）を確認し、遺構・遺物は検出されなかった。

34. 越中国府関連遺跡（田中地区）

所 在 地	高岡市伏木一宮二丁目 239-1
調査期間	平成 29 年 3 月 2 日
対象面積	263.73m ²
試掘坑	2 本
発掘面積	約 4.25m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 48 図 調査区位置図

調査概要

本地点は、遺跡の中央に位置する。

調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 65 ~ 90cm、標高約 21.4m 付近で地山（青灰色砂質土）を確認し、遺構・遺物は検出されなかった。

35. 上北島遺跡（福島地区）

所 在 地	高岡市上北島 353-1
調査期間	平成 29 年 3 月 8 日
対象面積	638m ²
試掘坑	3 本
発掘面積	約 3.5m ²
調査原因	集合住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 49 図 調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の東側に位置する。周辺の調査では、弥生時代～中世の遺物が検出されているが、時期が判明している遺構はない。

調査は対象地に試掘坑を 3 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 20 ～ 30cm、標高約 11.0m 付近で地山（疊層及び黄褐色砂質土）を確認し、遺構・遺物は検出されなかった。

36. 中曾根館遺跡（圃場整備地区）

所 在 地	高岡市中曾根 949 外 4 筆
調査期間	平成 29 年 3 月 10 日、17 日
対象面積	4,990m ²
試掘坑	3 本
発掘面積	約 3.44m ²
調査原因	圃場整備
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 50 図 調査区位置図

調査概要

本地点は遺跡の南に位置する。中曾根館遺跡の周囲では、神楽川等の河川が形成した沖積低地が拡がり、旧放生津潟などの低湿地に囲まれた微高地上に位置する。

調査は対象地に試掘坑を 3 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 60cm、標高 0.6 ～ 0.8m 付近で地山（青灰色粘質土）を確認し、遺構・遺物は検出されなかった。

37. 越中国府関連遺跡（山田地区）

所 在 地	高岡市伏木古府元町 10 番 5
調査期間	平成 29 年 3 月 16 日
対象面積	306.44m ²
試掘坑	2 本
発掘面積	約 2 m ²
調査原因	個人住宅建設
検出遺構	なし
出土遺物	なし



第 51 図 調査区位置図

調査概要

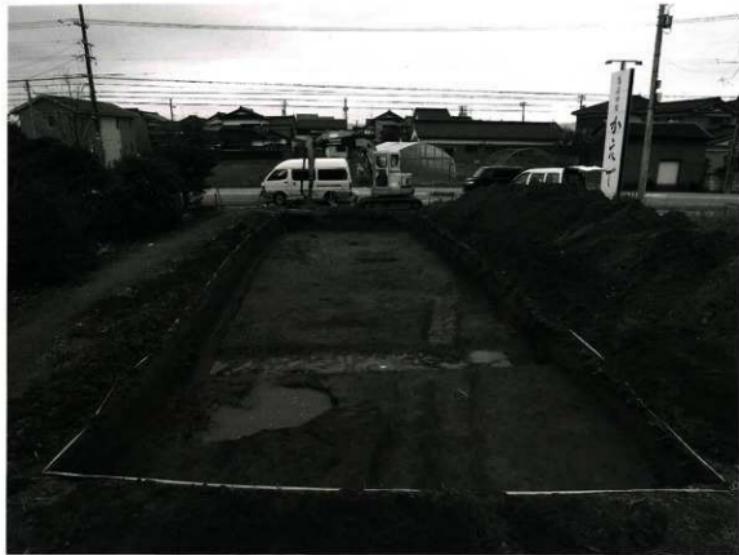
本地点は、遺跡の西側に位置する。

調査は対象地に試掘坑を 2 個所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 50 ~ 55cm、標高約 31.4 ~ 31.5m 付近まで掘り下げたが、近現代の造成土が厚く堆積していた。造成土中に遺物は検出されず、本地点の旧地形は谷地形であったと考えられる。

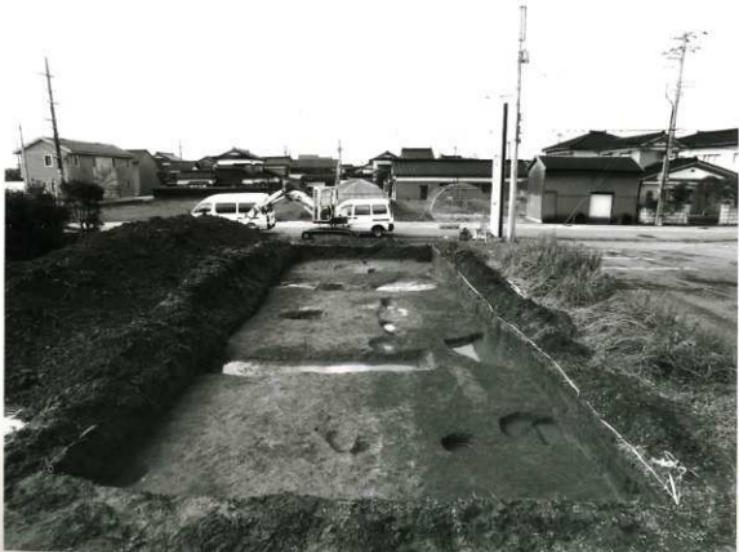
参考文献

- | | | |
|---------------------|-------|--|
| 西井 龍儀 | 2001 | 「1.2 富山県産瓦の変遷」『北陸の瓦の歩み』 社会法人日本セラミックス協会北陸支部 |
| 高岡市教育委員会 | 1997 | 『市内遺跡調査概報 VII』 |
| 高岡市教育委員会 | 2001a | 『市内遺跡調査概報 XI』 |
| 高岡市教育委員会 | 2001b | 『石塚遺跡・東木津遺跡調査報告』 |
| 高岡市教育委員会 | 2003 | 『上野 A 遺跡発掘調査報告書 II』 |
| 高岡市教育委員会 | 2005 | 『中曾根西遺跡調査報告』 |
| 高岡市教育委員会 | 2010a | 『越中国府関連遺跡調査報告』 |
| 高岡市教育委員会 | 2010b | 『中曾根西遺跡調査報告 II』 |
| 高岡市教育委員会 | 2010c | 『市内遺跡調査概報 IX』 |
| 高岡市教育委員会 | 2011 | 『下佐野遺跡調査報告 II』 |
| 高岡市教育委員会 | 2014a | 『市内遺跡調査概報 XX III』 |
| 高岡市教育委員会 | 2014b | 『中木津・西木津遺跡調査報告』 |
| 高岡市教育委員会 | 2015 | 『市内遺跡調査概報 24』 |
| 高岡市教育委員会 | 2016 | 『市内遺跡調査概報 25』 |
| 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 | 1996 | 『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告』 |
| 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 | 2006 | 『下老子笛川遺跡発掘調査報告』 |
| 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 | 2013 | 『井口本江遺跡発掘調査報告』 |
| 富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所 | 2015 | 『出来田南遺跡発掘調査報告』 |

写 真 図 版

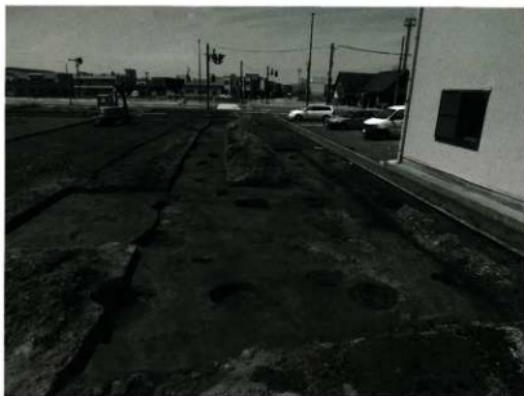


1. 瑞龍寺遺跡 早借地区 第1地区全景（東）



2. 瑞龍寺遺跡 早借地区 第2地区全景（東）

図版〇一
遺構写真
出来田南遺跡・下北島住吉遺跡・越中国府関連遺跡



1. 出来田南遺跡
大和情報サービス地区
第1トレンチ全景（東）



2. 下北島住吉遺跡
高木地区
第1トレンチ全景（南）



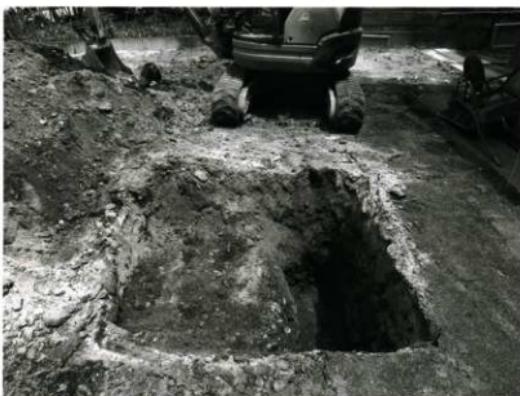
3. 越中国府関連遺跡
金森地区
第1トレンチ全景（西）



1. 赤祖父羽佐間遺跡

カネコ・コーポレーション地区

第1トレンチ全景（北）



2. 下老子笠川遺跡

永原地区

第2トレンチ全景（南）



3. 前田墓所遺跡

三協フロンティア地区

第1トレンチ全景（東）

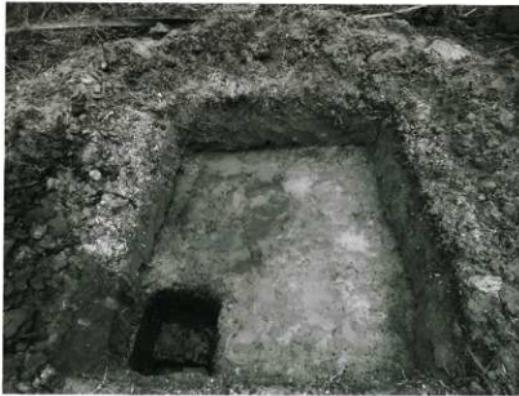
図版〇四 遺構写真 前田墓所遺跡・出来田南遺跡・中曾根北遺跡



1. 前田墓所遺跡
井上地区
第1トレンチ全景（西）



2. 出来田南遺跡
桜野地区
第1トレンチ全景（西）



3. 中曾根北遺跡
石教商事地区
第1トレンチ全景（西）

図版〇五
遺構写真
越中国府関連遺跡・守護町遺跡・积迦堂古墳群



1. 越中国府関連遺跡
田口地区
第2トレンチ全景（南）



2. 守護町遺跡
古川地区
第1トレンチ全景（東）



3. 积迦堂古墳群
日本海鉱業地区
第1・2トレンチ全景（東）

図版〇六 遺構写真 前田墓所遺跡・中木津遺跡



1. 前田墓所遺跡
西森地区
第2トレンチ全景（西）



2. 中木津遺跡
上野地区
第1トレンチ全景（南）



3. 中木津遺跡
澤井地区
第1トレンチ全景（東）



1. 今市遺跡
柴地区
第2トレンチ全景（東）



2. 下佐野遺跡
消防分団地区
第1トレンチ全景（南）



3. 下北島住吉遺跡
IDOM地区
第1トレンチ全景（北）

図版〇八 遺構写真 赤祖父羽佐間遺跡・東木津遺跡・出来田南遺跡



1. 赤祖父羽佐間遺跡
リブウェル地区
第2トレンチ全景（南）



2. 東木津遺跡
醉谷不動産地区
第3トレンチ全景（西）



3. 出来田南遺跡
上田地区
第3トレンチ全景（西）

図版〇九
遺構写真
下老子笠川遺跡・井口本江遺跡・出来田南遺跡



1. 下老子笠川遺跡
本領建設工業地区
第1トレンチ全景（西）



2. 井口本江遺跡
ア・ライズ地区
第1トレンチ全景（南東）



3. 出来田南遺跡
ア・ライズ地区
第1トレンチ全景（南）

図版一〇 遺構写真
瑞穂町遺跡・中曾根西遺跡・上北島遺跡



1. 瑞穂町遺跡
出木野屋地区
第1トレンチ全景（東）



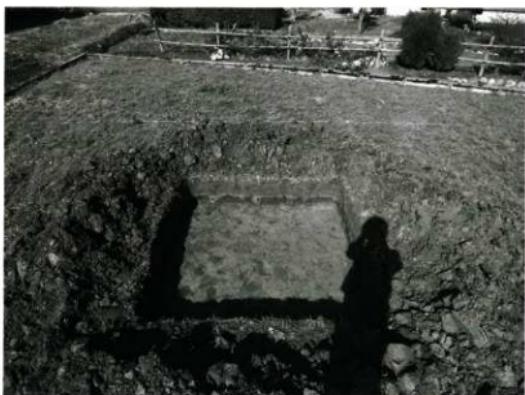
2. 中曾根西遺跡
山森運輸地区
第3トレンチ全景（南）



3. 上北島遺跡
石浦地区
第1トレンチ全景（東）



1. 西佐野千代遺跡
黒越地区
第1 トレンチ全景（北）



2. 下老子笠川遺跡
永原2地区
第1 トレンチ全景（南）



3. 中曾根遺跡
圃場整備地区
第2 トレンチ全景（西）

図版一二 遺構写真 中曾根遺跡・江尻A遺跡・井口本江遺跡



1. 中曾根遺跡
圃場整備地区
第5トレンチ全景（西）



2. 江尻A遺跡
二塚地区
第1トレンチ全景（東）

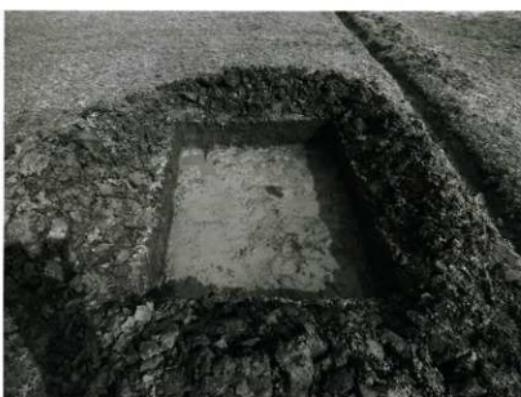


3. 井口本江遺跡
市道18号地区
第1トレンチ全景（西）

図版一三 遺構写真
井口本江遺跡・上二上遺跡・越中国府関連遺跡



1. 井口本江遺跡
飼井地区
第1トレンチ全景(東)



2. 上二上遺跡
中山地区
第1トレンチ全景(西)



3. 越中国府関連遺跡
田中地区
第1トレンチ全景(西)

図版一四 遺構写真

上北島遺跡・中曾根館遺跡・越中国府関連遺跡



1. 上北島遺跡
福島地区
第1トレンチ全景（西）



2. 中曾根館遺跡
圃場整備地区
第2トレンチ全景（西）



3. 越中国府関連遺跡
山田地区
第2トレンチ全景（東）

報告書抄録

ふりがな	しないいせきちょうさがいほうにじゅうなな						
書名	市内遺跡調査概報 27						
副書名	平成 28 年度 瑞龍寺遺跡の発掘調査報告他						
巻次							
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報						
シリーズ番号	第 78 冊						
編集機関	高岡市教育委員会						
発掘担当者	杉山大晋 田上和彦 盛田拳生						
報告書編集者	杉山大晋 田上和彦 盛田拳生						
所在地	〒 933-8601 富山県高岡市広小路 7 番 50 号 Tel 0766-20-1463						
発行年月日	西暦 2018 年 3 月 23 日						
ふりがな 所 収 遺 跡 名	所在 地 市町村	コ 一 ド 遺跡番号	北 緯 ° °'	東 緯 ° °'	調査期間	調査面積	調査原因
瑞龍寺遺跡	富山県高岡市 上岡町	016202 202145	36° 44' 10'	137° 00' 42'	161028 161202	205.20m ²	個人住宅建設
その他の遺跡 各調査区	富山県高岡市	016202			160413 170330		個人専用 住宅建設等
所 収 遺 跡 名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構		主 な 遺 物	特 記 事 項	
瑞龍寺遺跡	散布地	近世	溝 土坑	2 条 27 基	中世珠洲焼、近世瓦、 近世土師器、近世肥前陶磁器、近世青磁等		

高岡市埋蔵文化財調査概報第 78 冊

市内遺跡調査概報 27

編集・発行 高岡市教育委員会

〒 933-8601 富山県高岡市広小路 7 番 50 号
TEL 0766-20-1463

2018 年 3 月 23 日

印 刷 所 小岡印刷株式会社

〒 933-0927 富山県高岡市利原町 3
TEL 0766-21-0411